

第12回藤沢市総合計画審議会

と き 2010年(平成22年)7月3日(土)
午前10時~正午
ところ 明治公民館体育室

次 第

- 1 開会
- 2 議事録確認 (資料1)
- 3 議事
 - (1) 各会議の開催報告 (資料2)
 - ア 藤沢市議会議員全員協議会
 - イ 第10回地域経営戦略100人委員会
 - ウ 地域経営戦略100人委員会分科会(6月29日開催)
 - エ 第9回庁内新総合計画検討会議
 - オ 第11回及び第12回わいわい・がやがや・わくわく会議
 - (2) 基本計画策定等における主要項目の検討
 - ア 基本計画の目標, 活動の方針等 (資料3-1, 3-2, 資料4)
 - イ 「藤沢の選択, 1日討論」(討論型世論調査) (資料5)
 - (3) 地域経営戦略100人委員会との合同協議について (資料6)
 - (4) 起草部会の設置について (資料7)
 - (5) その他
- 4 その他
- 5 閉会

書記(事務局)
藤沢市経営企画部経営企画課
電 話 (0466) 50-3502
ファクス (0466) 50-8402
e-mail kikaku@city.fujisawa.kanagawa.jp

第 11 回藤沢市総合計画審議会議事録

と き 2010 年（平成 22 年）6 月 5 日（土）

午前 10 時

と ころ 長後公民館 3 階ホール

1 開 会

2 議事録確認

3 議 事

（1）各会議の開催報告

ア 第 9 回地域経営戦略 100 人委員会の開催結果について

イ 第 10 回わいわい・がやがや・わくわく会議の開催結果について

（2）基本計画策定等における主要項目の検討

ア 「ここに重点！未来へのステップ調査」の実施結果について

イ 「ふじさわ未来課題」の重みづけについて

ウ 「藤沢づくり」と「地域づくり」の仕組みと進め方について

（3）その他

4 その他

5 閉 会

事務局 開会に先立ちご報告させていただきます。1点は、ただいまの委員数は過半数を超えておりますので、会議は成立しております。

2点は、資料の確認です。(資料の確認)

次に、資料1の前回審議会議事録は、訂正等がございましたら、6月25日までに事務局にお知らせいただきたいと思います。

それでは、これからの進行は曾根会長にお願いします。

÷÷÷

曾根会長 ただいまから第11回藤沢市総合計画審議会を開催いたします。

本日も円滑な議事進行に務めながら、委員の皆さんの活発なご意見を賜りたいと思いますので、ご協力、よろしくをお願いします。

本会議は公開としております。傍聴希望の方がいらっしゃれば、ご案内してください。(傍聴者1名入室)

なお、傍聴者は発言できませんので、よろしくお願いします。

前回議事録の確認は事務局から説明がありましたので、早速、議事に入ります。

÷÷÷

曾根会長 議事(1)各会議の開催報告について

ア 第9回地域経営戦略100人委員会の開催結果について

イ 第10回わいわい・がやがや・わくわく会議の開催結果について、一括して事務局から報告をお願いします。

事務局 (資料2参照)

1点目の第9回地域経営100人委員会は5月16日に行い、基本計画の骨子(構成)、中長期財政計画の考え方についてご説明し、実施した「ここに重点!未来へのステップ調査」、83項目に基づく「ふじさわの未来課題」について集計した結果を踏まえて、13地区から出ている方たちには13地区に分かれていただいて地区課題を深堀しながら、地区としてどういう重点課題をまちづくり目標にしていくかという作業を行っていただきました。また、各領域からの公募委員は基本構想の都市ビジョンの1,2,3に分かれ、全市の未来課題について戦略目標の深堀作業をいたしました。今後の予定として、本日、午後にかかれる戦略100人委員会で、具体的に地域と全市の課題整理が行われますが、なお、領域の方については、5月31日には職員と一緒に全市の未来課題の深堀作業もしていただいております。

イの第10回わいわい・がやがや・わくわく会議は5月12日に開催され、同様な作業をさせていただいております。

ここからは資料にはありませんが、13地区ごとの地域経営会議につい

ては、先般関係者の打ち合わせが行われ、6月30日を目途に地域の未来課題、重点課題を深堀し、地区ごとのまちづくり目標とまちづくり活動で現状値はどうなっているのか、目指す将来のアウトカム値をどうするのか、誰が担っていくべきなのかということも含めてワーキンググループをつくり議論し、全体会議に諮りながら作業が行われております。したがって、同じ時期を目指して、地域と全市域とで進めております。特に、全市も13地区も現状値がどうなっているかというのが重要になってきます。例えば地域でいけば、夜道を安全に歩ける環境ということが政策に上がってきたときに、市民の皆さんが、どこの道路でヒヤッとするようなことがどのくらいあったか、そういう定性的な問題、あるいは定量的に数値等で既に出ている現状値でないものが当然出てきますので、それについては全市も地区からも挙げていただいて、再度、地区別、全市別の現状値、アンケート調査を7月20日以降に予定し、8月10日までには現状値も追加でわかるようにしていきたいと考えております。

また、昨日、庁内新総合計画検討会議も開催し、きょうご報告するような内容等の検討も始まりました。以上です。

曾根会長

次に、地域経営戦略100人委員会基本計画策定に向けての取り組みについて、コーディネーターの玉村委員から補足説明がありましたらお願いします。

玉村委員

4月18日に藤沢市として課題となり得ることを並べたマトリックスを確認し、かなり細かいご指摘を受けて市民の観点に近い表現に直しております。その後に重みづけ調査として1万5,000人に配布して50%を超える回収率を得ました。それに続いて第9回では速報というか、どういう発想でそれぞれ重みづけして分ければいいのかということをご説明した後に、それぞれの観点から確認していただいたわけですが、それをそれぞれお持ち帰りいただいて、検討を進めてきているのが現状ですので、重みづけされた結果を見ながら、さらに皆さんで熱い議論がされたという実態があります。細かいことは後の調査結果のときにお話したいと思います。

曾根会長

報告がされましたが、詳細な内容は後ほどの議題の方で触れたいと思いますが、ご意見・ご質問がありましたらお願いいたします。

特にないようですので、次に移ります。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

曾根会長

(2) 基本計画策定等における主要項目の検討

ア「ここに重点！未来へのステップ調査」の実施結果について

イ「ふじさわ未来課題」の重み付けについて

ウ「藤沢づくり」と「地域づくり」の仕組みと進め方について、一

括して事務局から説明をお願いします。

(資料3-1参照) (パワーポイント)

「ふじさわ未来課題」のつくり方として、昨年11月から1月にかけて、地域経営会議や100人委員会のご協力を得まして、1万3,400件の「気づきアンケート」を行い、発言数は約4万2,000。それをどういう形で整理するかということで、例えば駅前に緑が多く、非常にいい環境であって、一方で賑やかさもあるというような場合には「賑やか」と「緑」と分けて、結果的には5万9,000になりました。

一方、庁内新総合計画検討会議においても行政の施策の棚卸しをしました。人口動態の変化、産業構造の変化等々で行政として今後考えていかなければいけない未来課題は何か、現在の総合計画2020の棚卸しの結果、行政施策の棚卸しは136件、さらに13地区ごとにボランティア活動やNPO活動等がどういうふうに行われているか、どういう方向であるのか活動の棚卸しを加えて450件に整理し、マトリックスに分類して4月段階で88項目に整理をしております。それを再度修正して83項目にいたしました。それが資料3-2です。横軸の基本構想で議決された藤沢づくりの目指す方向。縦軸の生活、活動、基盤等に整理をいたしました。

この83項目に対してのアンケート内容は、藤沢市民20歳以上の男女1万5,000人を対象に、年代別に区分した住民基本台帳から無作為抽出いたしました。

アンケート内容ですが、例えば「まちの様子やさまざまな活動状況について」では、生活実感としてそれがどのくらい実現しているかという視点で、「よくできている」「だいたいできている」「あまりできていない」「できていない」「わからない」にそれぞれ印をつける。さらに、重要度として政策づくり、まちづくりにおいて、特に「大切なこと」を設問ごとに3つ選んでもらうとしております。(以下資料参照)

実施(4月23日～5月10日)の結果、回答数7,760(51.4%)でした。20代を除き、全市の人口構成に近い回答となりました。地区別回答については人口案分ですので、例えば片瀬地区の5.1%は回収率ではありません。

次の調査結果の分析では、横軸が重要度、縦軸が充足度のグラフをつくるにあたり、4つに分けております。①の「協働型の課題解決で価値向上へ」は、重要度は高いが充足度は低いものについては、総合計画基本計画で優先的に戦略目標、施策の中に入れてきちんとフォローしていく必要がある。②の「強みや魅力の維持・向上を」は、重要度、充足度も高いもので、これを今後どう伸ばしていくか。③の「より効率的に価値の維持を」では、充足度は高いが重要度は低いもので、今後も効率的な取り組みによ

って維持していく。④が一番の課題であって、充足度も低く、重要度も低いもので、特に今回のアンケートが身近な市民生活の観点からお聞きしていますので、総体的に優先度が低くなる可能性もあるため、明確かつ具体的な根拠で指摘できるものであれば、深堀して全市の課題、地域の課題として取り組んでいく必要があるという重要なポイントになります。

こういったアンケート結果を踏まえて、どのようになったかということで、全市版と 13 地区版ごとにカラー分けしております。ブルーは、重要度は高いが充足度は低い。グリーンは重要度、充足度が高いもの。白は、重要度は低いが充足度は高い。茶色は重要度、充足度とも低いものです。

(以下資料 3-2 参照)

4つの領域のうち1つは重要度が高く、充足度が低いでは、市域全体にはないが御所見や遠藤にはあるという部分については、地域固有の重点課題としてきちんと取り上げていく。領域の1番と2番の部分については、全市でも地域でも取り上げられていますが、充足度と重要度に対する差異があるものもきちんと取り上げて深堀する。3つ目は、重要度、充足度も低いについては、全体的に見て取り組まなければならない課題があれば、根拠をつけて引き上げていく。もう1つは83の未来課題に全市でも地域でもないものがあって、将来、必要な重点課題であるものについては別途、基礎資料をもとに追加していくという形で、現在作業を行っております。

次に、資料3-3は、資料3-2の全市のカラー版の未来課題の気づきを4つの領域に分類し、プロットしたものです。資料3-4は、13地区ごとにありますが、赤い△が地域の4領域で上がってきたもの。ブルーは市域全体で上がってきたもので、比較すると地域によっては、4つの領域に対する充足度と重要度を示した図面です。

次に、資料3-5の集計グラフでは、例えば1番の「身近な地域で暮らしやすさが実現していること」の設問に対して、赤がよくできている、肌色が大体できている、ブルー系が余りできていない、できないとなっていて、御所見地区、長後地区ではできていない、余りできていないが他地区から比べブルーの領域が大きい、これは地区ごと、全市によって違いがあります。(以下参照)

3-6は設問別・年代別の集計グラフですが、特に2番の「市民が自慢できるまちであること」のよくできている部分では、20代と80代はそう思っているけれども、30代から60代は意識の変化に差が出ております。また、36番の「誰もが快適に暮らせ、居心地のよいまちであること」では、80代以降はよくできているという思いが強いが、20代から50代はそう感じない。子育ての問題についても、子育て中と子育てが終わった世代では

意識がかなり異なっています。(以下参照)

今後は6月末を目途に、全市についてはマトリックスの中から次のステップとして重要課題をもとに重点戦略目標を20~25ぐらいを選び、目指すべき指標をつくり、活動行動で具体化していく政策づくりに入っていきたい。13地区についても同様に地区別の未来課題の重みづけをして、まちづくり目標、目標値、具体的に行動するまちづくり活動をつくり、現状値やそれを誰が担っていくのかというようなことも含めて作業をしております。そして次回の総計審で基本計画の戦略目標、施策についてご検討いただきたいと思います。以上です。

曾根会長 説明が終わりましたが、大変な分量の資料ですが、これからご議論いただきたいと思います。

塚本委員 アンケートの集計グラフは非常に分かりやすいが、前回の100人委員会にはまだ出ていなかったように思う。特に各地域がそれぞれの地域課題を比較検討しているときに、83項目にわたる地区別のグラフ表示は参考になる。特にマトリックスの位置づけの表だけでそれぞれの地域の特徴を抽出しようと思っても前回は困難を極めていたと思うので、きょうの100人委員会にこのグラフ表示の資料が渡されて、そこでまた詳細分析するんですか。

事務局 おっしゃるとおり、前回は間に合わなかったのですが、きょうは集計グラフと年代別のグラフもお出し、最終的な未来課題の深掘作業をしていたきたいと思いますと考えております。

塚本委員 6月末には全市と地域ごとにまとめるという説明があったが、あとわずかな期間で、特に各地区の計画をまとめ上げていくことについては、きょうの100人委員会を経て、それぞれの地域に戻って地域経営会議なりでまとめていくのでしょうか、まとめ方のフォローアップはどうか。

事務局 なるべく負担をかけずに整理していきたいと思っておりますので、先般もセンター長、公民館長会議を3回ほど開いて、地区別にどういうプロセスで6月、7月を迎えていくかという日程を確認して、議論のベースとなるアンケート以外の、行政が持っている全市別、地区別の重要な基礎的データについて各センターに配布しておりまして、地区の未来課題が見えてきました。また、地域の方々自分たちのまちをどうしていこうかという議論が一方で進んでおりますので、そういう形で何とか整理していただきたい。

また、地域経営会議が主体となってつくるもの、事務局が埋めていく部分のフォーマットがありますので、必要に応じて経営企画部、市民自治部、建設部門等が応援体制を敷きながらやりたいと思っております。

加藤委員

ふじさわの未来課題、マトリックスについて、ある地域経営会議を傍聴したところ、目指す方向と課題領域をそれぞれグループごとに順位づけをしている場面に出くわしました。地域経営会議の皆さんは、比較的年齢も高い方だったためか、藤沢の子どもたちを安心して育てられる環境の順位づけの中で、子育て世代の立場に立った順位づけになっていないような場面に出くわして、ちょっと不安を覚えたが、今後、市民集会、地域の集会を開いてまた新たにご意見をいただくのか。地域経営会議の方たちも自分たちが地域の代表として意見を出しているのかといった不安をお持ちのようですので、今後の進め方についてお聞かせください。

もう一点は、アンケートについて、アンケートを送られた市民は一生懸命アンケート用紙に記入していたところに、督促のはがきが送られてきたと。締め切りの5月10日より前に、まだ日にちが過ぎていないのに送られた点についてご説明をお願いします。

事務局

地域経営会議、市民センターが中心になって地区別の未来課題について議論がされておりまして、当然、子どもたちを安心して育てられる環境についても議論の差はあると思います。そういうことも含めて事務局に上がってきますし、市域全体で考えるべき重要な課題については、市域全体の目線でつくり上げていきたい。また、地域経営会議の委員の母体はさまざままで、例えば交通安全の方がおったり、子育てグループの方が入っていたりしておりますので、そういう委員さんも自分が活動している人たちからの意見もいただきながら、さらに深堀をしていく。そして分厚いアンケートの中身を見ますと、当然そういう声が入っておりますので、重要課題の深堀の中で1つ1つ拾い上げていただくようお願いしております。

今後の進め方としては、地域経営会議と市民センター及び公民館が6月末を目途に第1弾の作業を進めております。各センターは各地域経営会議が行われた結果の報告として、地域まちづくり計画のたたき台ができた段階で、地域市民の声を聞く地区市民集会といった形をとっていききたい。そして次のステップとして、実施計画をつくっていくときにもそういう方法をとっていききたい。また地域によってはまちづくりニュース等いろいろな知恵を出して、情報を開示して可能な限り、地域の市民の声を聞くことにしていきたい。

それからアンケートの督促について、「お忘れの方がありましたらお願いします」ということだったのですが、そういうことであれば、今後の貴重なご意見として対応させていただきたいと思えます。

曾根会長

市民から取った大量のデータは総合計画の中にどう組み込むのか、そのつながりのところを説明してください。

玉村委員

大きな流れとしては、できるだけ幅広く市民の声を集約していきながら、83の重みづけして、1万5,000という数は全市としてデータが見えるようにして、重要度と充足度という2つの気づきをつくったわけです。それをその後、どうするかというと、この83はあくまで集約したのですが、例えば子育ての話、治安の話しても、地域、地域で考える観点は違うだろうというのが藤沢市の総合計画づくりの発想です。すなわち地域経営会議をやるというのも、そういった地域内の違いがある中で、いかにより地域を志向していくかということですので、できるだけ地域の共通のこともやっていくということで83の項目で調査をしたわけです。それが各地域でどういう意味があるのか、それを今、地域の皆さん、センターの方々が協力して分析している。1つ1つ重みづけされた結果として注目しようとなったものが、一体この地域の意味なのかを確認しあう。これまでのさまざまな調査、市民が生活実感として気づき、そして提示されたものをもう一回確認してみる。もしくは地域経営会議のメンバーがさまざまなところで実感を確認してみる。そういうことをしながらどういう意味合いがあるのか、どういう背景があるのかを深堀していきながら、地域内でどういう意味合いでこの課題をとらえるかということを行っています。

それに対して地域の人ができるかどうかにも評価をしていきたいということなんです。これが課題だ、目標だと言うだけでなく、それができたかどうかを地域で確認できる仕組みに持っていこうではないかということも考えていたわけです。それを地域のアウトカムとして、どういうものを掲げる必要があるか検討をしていく。実際に策定できるもの、できないものはありますし、アンケートで聞くだけでなく、統計として客観的な数値の組み合わせをして新しい仕組みをつくっていく。そういうものを体系的に持っていくと、それこそ藤沢の未来課題として、全市として何が実現できているかを確認しつつ、それぞれの地域で試行錯誤していき、結果的には地域の活動と全市の活動が相乗効果の形になっていくというふうに設計されていると思います。

東海林委員

補足として、前回の100人委員会で、ある子育て中の方から「小学校1年生で40分の授業をきちんとした姿勢で受けられない子が最近多い」という話をされていたが、それは変だということで、見てみると、子どもたちの体力といったことが抜け落ちているという話になった。いろいろ原因はありますが、今はあくまで子どもを対象にして考えてみると、子育てをしているお母さんたちがどんな食生活、どんな遊びを取り入れれば、40分の授業時間をきちんとした姿勢でいられるのかという指標も必要ではないか。こういった情報もほかの地域にも提供してやっていくと、加藤委

員が懸念されていることが少しフォローできるのではないかと思います。

曾根会長

今の子どもの問題が何であるかわかった上で、こうしたいというのは方向性がかなりクリアになると思うんですが、その辺を見つけていただければ、単なる表面的な調査以上のものが出てくるのではないかと思います。

塚本委員

物事をつくっていく過程の中で、積み上げるためのデータの収集がある程度形が見えてきた段階で、一たん、初心に戻るというのも必要かなと思う。今、その時期でもあるような気がする。言ってみれば非常に高度な手法をもって、市民参加の形で地域課題も上がってきている中で、子育てのことにしても、それでは上がり切れないような課題も当然あるという考えを持っていなければいけないし、今までの手法の中で考えてみると、どうしても藤沢の地域内のことに視点が置きすぎているのではないかという考えも出てくるわけです。神奈川県の中で藤沢市を見たときにそういう意見は、今のアンケートとか重みづけの中に反映されているのだろうか。また、日本の国の中における藤沢市の位置づけでの視点、世界の中、日本の中での藤沢というような見方、例えば日本は借金大国と当たり前のように言われていて、そういう国づくりであるけれども、これまで歩んできたレールの中の域を越えていないのではないか。そういう新たな視点、発想というのをこの大事な未来計画に取り入れるのも必要ではないかと思います。

事務局

おっしゃるとおり、非常に重要な視点であると思っております。特に全市的にこの未来課題を戦略目標や施策づくりに据えていくときには、地域内分権、市内分権を進めていこうとしている。それから市民、地域の方々、NPO、ボランティア、大学、企業などと行政が連携して新しい公共づくりをしていこうとしている。こういう視点をきちんと押えながら、問題の深堀をしていくというのが1点。

当然、産業問題や交通問題が上がってくれば藤沢市としては首都圏との対比とか、県外での対比、圏域での対比等を見ながら戦略目標や施策づくりをしていかなければいけないと思いますので、これは非常に重要な視点ですので、そういうことも踏まえて、全市の部分については特にやっていきたいと思います。

玉村委員

ちょっと補足をさせていただきますと、今回、こういったやり方をしてるのは、政策に関してのマーケティングリサーチというやり方で12~3年ぐらい前に青森県からスタートして、いろいろな地域で取り組みがされてきたという背景があります。こういうことは周辺自治体に波及しやすいので、青森県がやったら青森市がやったとか、秋田市でやったとか、それが飛び火して名古屋周辺の自治体、例えば東海市とかで、そういう手法を

使っているいろいろなやり方をしているということは聞いています。そしていろいろな治験が出てきているということもあるわけです。それなりに試行錯誤していますし、藤沢はそういったことをできるだけ活用して、さらにエリアマーケティングだけではなく、地域、地域で行っている。それから活用方法もかなり出てきていて、これは誰が改善するのか考えると、実際、行政だけではできないものがたくさん出てくる。だからこそ協働若しくは新しい公共という仕組みの中で、何となくみんなでやりましょうという形でやってもなかなか進みにくいところを、地域として皆さんが指摘した課題は、こういうことだった、もしくはアウトカムはこういうことなのではないかという、とりあえずのきっかけが見えるので、協働の仕組みとして使おうということでも出てきます。そのときに足りないこともたくさん出てくるわけです。こういったことはいけなかったのではないかとか、こういうことを深く見なければいけないのではないかとか、実はそういうこともひっくるめて地域づくりですから、こういうことをきっかけにして何年か後にまた見直しをしようじゃないかとか、何もこういう課題がなくても自分たちはやった方がいいのではないかとか、そういったような話し合いにつながるケースもあります。ですから、情報が「見える化」されるということは、もちろんそれだけをやれという意味ではなくて、足りないことも気づくということだったりしますから、そういう意味合いで藤沢市の新しい基本構想で掲げた「私たちの政府」とか「新しい公共」の中でも、こういう発想を使おうということによってやっております。

もう一点は、限界もたくさんある。こういう発想では出てこない項目もたくさんあります。徹底的に皆さんの声を聞いてみるけれども、そこでは出てきにくい要素がたくさんあります。例えば神奈川県の中の藤沢、日本の中の藤沢、世界の中の藤沢、そういった要素は出てきている可能性は多いですし、これだけたくさん来ているから入っていると思うんですけども、なかなか目立ちにくかったりする。そういった出てきにくいものに関しては、あえて足りないんだからこそ藤沢市としてどうするか、それは行政力の話かもしれないので、行政の方々がデータを見て、こういう要素が足りないのではないかとか、藤沢市は何が課題なのかとか、産業構造として工業はどうなっているのかとか、気づいていること、見えないこともあったりしますから、そういったことに関してはしっかり分析して加えていかなければいけない。それをどこのタイミングでやるか、どういう発想で加えるかということ、限られた時間ですから、宿題になることかもしれないけれども、そういうこともあります。

もう一点は、出てきても重みづけされない項目、例えば 83 を重みづけ

してくださいという、皆さん、身近な話、生活していく中で気づきやすいことは重みづけしやすいけれども、中長期的な課題とか、日本全国の課題は重みづけされにくい可能性もある。それは資料3-4のオレンジ色に当たるようなものがそういう傾向が出てきやすいわけです。すなわち、皆さんが充足はしていないと言っているけれども、重要度が低いというところでオレンジ色になったりします。これは課題ということではなくて、データをもう一度確認してみて、全市としてやらなければいけないかどうか確認する必要もある。そういう観点で手落ちがないように検討していただきたい。あえてそういう手法を使うからこそ皆さんの議論がしやすくなると思っています。

川島副会長

1万5,000人のアンケートのデータ分析がされているが、資料3-3の「未来課題の位置づけ；全市域」の1番の「身近な地域での暮らしやすさが実現していること」では重要選択率65.3%、充足率40%となっているが、地域別の例えば片瀬地区61%、鶴沼地区66%とそんなに偏差がないという印象を受けるが、御所見地区などはマトリックスから見るとこれだけずれている、あとの地域は偏差値が中に入っているかを分析すると、1番から83番の平均値などが浮いてくるわけで、これだけのデータを生かされるというのではないかと思う。私も工学的手法の分析をしまして、プラス・プラス、プラス・マイナス、マイナス・プラス、マイナス・マイナスという4区域の中で重心点がどうだということをやっているけれども、それはマトリックスに似ているけれども、そのラインのズレを見ると、ここは防犯に弱いとか、この地域は工業地域に合っているとかというのが出る可能性がなきにしもあらずで、これは素晴らしいデータで大変だったと思いますが、その辺はいかがですか。

玉村委員

おっしゃるとおりです。藤沢力というか、藤沢の地域力のよさで、そういうことをおっしゃる市民はたくさんいらっしゃいます。例えばそういうところで、こういう分析ができるのではないかなってきたら、本当に意味が出てくることですから、そういう活用は地域でもできるだけしていただくといいと思っていますし、ある地域では恐らく出てきていると思います。できるだけシンプルにデータをつくっているのは、難しい解析をしてしまうとブラックボックスになってしまって、皆さんが使いにくいと思って、できるだけシンプルに、例えば眺めてみるだけでも最初の気づきはやりやすい。すなわちうちの地区とほかの地区の差は何だろうかとか眺めていくと、北の方に特色があるとか、それをもっと細かく見てみようかという地域内の課題が見えてきたりするということがありますから、そういった使い方としてまず資料提供している。この資料だけでちゃんと分析しよ

うと言った場合、考えるための資料として提供しているわけですから、そういった使い方をしていただければいいと思います。

それから資料 3-3 の 1 番を見ると、全部緑色だということをおっしゃっていたと思いますけれども、右上の②のところに来たものというのは、決して意味がないわけではなくて、とても意味のあるところなんです。すなわち皆さんが重要だと言って、さらにできていると言っているわけです。それはすなわち藤沢のよさを言っている。みんな大切だと言っているけれども、それはちゃんとできているということも言ったわけですから、そういう観点で、実はいいということ言っている。それは単にいいからやらないのか、そうではなくて、いいからこそちゃんと維持するか、若しくはもつと、もっとやるべきなのか、そういう観点が必要になってくるわけです。そういった意味合いでこの 4 つの表現に分けてみて、返答の仕方を変えましょうということも 1 つ必要なことです。そして青いところ、すなわち重要だけれども、充足していないものだけ注目しやすいけれども、それは意味が違いますから、先ほど④で言ったとおり、④はどちらかという、全市で見るとか、なかなか気づきにくい課題とか、でも、できていないということ言っているのか、そういった意味合いでとらえ直して分析することは必要だと思いますので、そういった観点でどんどん使っていただくと、よりその地域の本質を考えるのに必要だと思います。

川島副会長

基礎データとしてはよろしいと思いますけれども、これを公開するとすると、市民の方がわかりにくいところがありますので、分析の応用力の方は、「こういう形ですよ」と、先ほどの部長や玉村委員がおっしゃったことでいいと思うんですけれども、もうちょっと整理したデータに立った方がいいかなと思う。緑とか青とか白とか、これはいいけれども、説明しないとわからないのではないかと思いますので、その辺はよろしく願います。

玉村委員

わかりました。

加藤委員

調査の分析について説明がなかったので、質問します。ステップ調査の中で「最後に」という欄に、「全体を通してご意見があったらお聞かせください」という項目があるが、この中に市民は聞かれていないこととか、全体を通じてのご意見をいただいていると思うので、その中身の分析とか、書かれたことをどう生かすのか。審議会に要約で結構ですので、資料として出していただけるのか。また、地域的にまとめてあるのであれば、地域経営会議等に出す予定があるのかどうかお聞かせください。

事務局

アンケートの「最後」の欄ですが、税金の問題等いろいろなご意見、要望があります。傾向としては総合計画の基本計画づくりには合わないもの

もあります。中には自分が 20 代の子育て中であれば、こういう思いがあるということも寄せられておまして、こういうことも含めて整理して、深堀作業をしていく中で政策づくり、目標づくりに重要なものがあれば、何らかの形で各地域経営会議等も含めて情報提供に努めていきたいと思えます。ただ、プライバシーの部分は整理をしながら検討させていただきたいと思えます。

田中委員

「ふじさわ未来課題」の深堀とか重みづけをして、4つの領域に仕分けしているのは素晴らしいやり方だと感心はしているけれども、玉村委員がお話された市民の意見をすべての市政に反映していくというけれども、見えない部分はかなりあると思うんです。確かに産業とかインフラなどは専門家でないとうからない。市民も理想は言うけれども、なかなかとらえにくいというのが現実問題で、それをどういうふうにカバーしていくかです。それと同時に、市民が要望している4つの領域の中でも行政マンは専門的などころで日夜働いていて、担当のところでも一生懸命やっている。そういう方々が、市民の公僕として責任を持って市政をやっていくのは原則ですから、市民の意見を取って、それで重点課題を抽出して、こうだと言っても、そここのところが引っかかる。新しい手法はいいけれども、極端にそういうことをやるような状況というのは、段階的に進んでいくならいいけれども、いきなり今度の総合計画で一気に進めていこうというのは、いかなものかということなんです。それを行政の方の意見が我々に全然通ってこない、わからないんです。市民の方の声は出てきているけれども、庁内会議の議論のあり方とか考え方を各セクションの方がされているのかというのが審議会の中に出てきていないので、この点を部長にお答えいただきたい。

事務局

重要なお指摘であります。玉村委員からもありましたが、今回の政策マーケティングリサーチ方式も限界はあります。それで私たちは今2つ考えておまして、まず地域で上げた重点課題、地域のまちづくり目標と全市で掲げたものとの調整すべきものは調整し、地域でやるべきものなのか、全市で取り上げるべきものなのかという整理はしていきたい。

2点目は、例えば公共資産が74万平米あって、その53%が老朽化している。これをどうしていかなければいけないかという問題意識は、この市民アンケートからは出てきません。そうすると、今、全庁的にやっていますけれども、将来を見据えて安定した地域コミュニティをつくっていく上で、そういう喫緊の課題については、行政も将来を予測した部門ごとにさまざまな課題、認識を持っております。全市の出てきたマトリックスを見ながら、重点課題を深堀していくときに、各部門にも不足している部分や

予測として絶対に考えていかなければならないものは掘り下げて、追加してきちんと根拠を出して、行政の戦略目標を含めて具体化していく政策にしていきたい。これはたくさんあります。例えば産業の問題についてもそうです。あるいは子育ての問題についても生活実感だけではフォローできない未来課題がありますので、それは全庁的に責任を持って議論し、地域版と全市版と整合をとらせていただきたい。今回のいいところは、全市版となりますと、全市のまちづくり計画は、どちらかという、一定の水準を底上げしたり、提供していったりする施策になりがちなところに、同じ課題でも地域によって上乘せ、横出ししながら独自の地域の魅力づくりをしていこうということに全市の計画と地域の計画が両輪で動けば、見えない部分、市として認識している課題についてはきちんと議論をして整理をしていきたいと思っております。

田中委員 言葉はいいけれども、途中の段階でも我々に提供されていないんです。100人委員会とか地域経営会議の市民の意見や資料はどんどん出てきているけれども、その見えない部分を行政はどう考えているのか、我々がわからない限り、審議のしようがない、意見の言いようがないということになってしまう。市民についての意見ならそれでいいけれども、最後にポンと出てきたときはどうするんですか、途中の経過が全くないじゃないかという話になってしまうので、その辺のところは気になっているんです。

事務局 昨年、庁内で行った藤沢市を取り巻く社会経済状況の変化に伴って、藤沢の20年後を見越して、どういう政策課題があるかというのは、出させていただいたと思っておりますけれども、それは貴重な資料ですので、前回もファイルの中に入れてさせていただきました。議論をしていくときに、市側としてこういう将来予測に対して、こういう課題を現時点では認識を持っているという資料がありますので、ご用意させていただきますので、それを踏まえてご議論いただきたいと思います。

渡辺委員 田中委員のおっしゃるとおりで、よく職員力と言われていて、わいわい何とか会議をやっていて、職員も各地域にいるわけです。そこに職員の持った課題があると思う。今、市民だけの話でやっていて、私は御所見ですので、御所見のことになると、これではとても我慢できないというところが多い。行政の立場から見て、今まで一生懸命地域のこともやってきたと思うけれども、そういうことが全然出ていない。この会議に出てきて、初めてここが職員と市民とは違うんだということがわかるわけです。市民にしても昨日越してきた人がいるかもしれないし、この地域にずっとという人もいるだろうし、そういう中で職員は行政としての立場からしっかりやってきたわけですから、その辺が大事ではないか。この間、視察に行った

対馬では、職員の地域アドバイザー制度というのがあって、各地区に職員力が発揮されているという制度ですけれども、これからは職員力についても提示されるといいのではないかと思います。

事務局

おっしゃるとおりで、別に隠しているわけではございませんので、2つできていますので、次回、ご提供したいと思います。それは昨年行った藤沢を取り巻く社会状況の将来予測に伴って、各部門がどういう新たな課題が出ているかというものです。それから今年になって行った、藤沢市が今行ってきた政策をもう一回見詰め直して、将来予測を踏まえて、どういう政策の棚卸しをしたかという結果、先ほども言いましたように百幾つか出てきておりますので、そういうものは行政の職員が各部門として考えたり、将来を踏まえて考えていることですので、それは議論をしていくときに重要だと思いますので、次回にご用意したいと思います。

玉村委員

確におっしゃったとおりだと思います。例えば企業もお客さんの声だけ聞いて経営していたらどうなるかというのはあります。そういう観点から考えるとかなり不安ですし、企業でももちろんどうしようかとなると思う。あと行政の特性というのもあるわけです。この話というのは、この藤沢市はこういうことをやっているからこそできている議論なのかも知れませんが。行政が普通、あれもこれも入れましょと、すなわち現場の実感があるからこそ、これも必要、あれも必要となって入れてしまう。書いてないと事業として成り立たないからあれもこれも入れたいということが起こるわけです。もちろん行政が地域を独占していて競争関係もないところで税金を先取りしているとか、行政内特性があるからこそ限界ももちろんあるわけです。そこが企業と違うところで、総花的にどうしてもあれもこれもとなってしまいます。どこから始めるかというところで、今回の藤沢市の行政はかなり意識されているので、まず市民の声を聞いてみる。徹底的に考えるきっかけとして市民の声をしてみる。しかし、そういう市民力だけでなく地域も行政と一緒にやるとやるぐらいの力を発揮しましょうと。つまり市民の声を聞いてみて、足りないところが見えてくる。そしてある部分、考えるポイントを持った上で何が足りないのかということの説明責任というか、根拠を明確にしないと長期的なものは出てこないとか、公益的なことをやらないから出てこないんだみたいなことを明らかにしていくと、メリハリのある行政であり、かつ力が発揮できる行政であると思うんです。そういうアプローチをしっかりとやっているからこそ必要なことを考えてやっていると思っています。

渡辺委員から対馬の話がありましたが、あそこは合併して1つの自治体になったわけですから、地域、地域に拠点があるわけです。そこに地域ア

ドバイザーを置いてということで、行政職員がしっかりと地域経営をやりましょうということでやっているわけです。そういう発想でやるということは、ある程度の広さを持つところでやらなければいけないわけで、いいケースをご覧になったと思います。藤沢市もセンター長がいるということは地域経営をしていますから、かなり職員の力が入っていますから、そういった方々が行政力として地域の課題は何かを考え始めているので、私個人として、研究者としてもそういった情報もつくるし、経営の発想を持って地域をどうするかということでやっていますから、かなり期待しているところです。

田中委員

誤解されるといけないので、一言申し上げますと、市民の目線で市民経営というのはいいことですし、市長も推進しているし、今回の進め方についても素晴らしいと思う。地域主権、地域分権はこれからの時代の要請だと思う。そういうことと職員力、行政力とどうマッチさせるかを話しているわけです。したがって、今、事務局から資料を提出するというけれども、現在、進めている市民の方が考えている資料と整合性のある資料にしてもらわないと、ただ、行政が考えているのは将来の構想だと、全く違ったものをポンと出してきて、今の市民の考え方との比較をしろといっても難しいから、できるだけ現在進めている市民の考え方と行政の考え方が同じ土俵の中でわかるような資料を提供していただくとありがたいと思います。

曾根会長

今のお話は、このデータと市がやっている棚卸しあるいは優先順位の付け替えとどう整合させるのかと、それはとりもなおさず総合計画審議会そのものの問題ですから、我が審議会で議論しましょうというときのデータの出し方を工夫してくださいというご要望だと思います。

事務局

わかりました。

曾根会長

次に、ウの「藤沢づくり」と「地域づくり」の仕組みと進め方について、きょうは、この点については十分に討論する時間がないかもしれませんので、継続して議論していきたい問題ですので、とりあえず説明だけお願いします。

事務局

(資料4参照)

前回の総計審で基本計画の5つの大きな柱立てをご提案しておりますが、地域づくりの進め方と仕組みというものをどういうふうと考えていくべきかという議論のたたき台です。1ページは基本構想についてのおさらいです。要は「私たちの政府」がつくる藤沢づくりを進めていくためのポイントとして「新しい公共」、いわゆる多様な主体との連携によって、それぞれの持つ資源やノウハウを活用しながら、藤沢版の新しい公共つくっていく。一方、市内分権と地域内分権による藤沢版の地域分権を進めること

により、私たちの政府づくりというものを進めていこうというのが基本計画です。

そして今までの総合計画を改めて、市民主体の藤沢づくりを推進していくための市民と地域と行政が協働で活用する計画として位置づけようというものです。さらに、基本的な考え方は基本計画に示されています。そして今やっている地域まちづくり計画をつくる際には、地域経営会議と市民センター・公民館が100人委員会等での検討内容を踏まえて、地域・市民の声を聞きながら案をつくっていく、それを総計審に出しています。同様にそれに基づいて実施計画をつくっていく、また地域まちづくり計画の実施計画については、1年ごとに進捗管理をしていかなければならないということも基本構想で位置づけられています。地域まちづくり計画も3年ごとのローリング、市域全体の基本計画も実施計画も同様です。

2ページです。総合計画はつくって終わりではなく、それはまだプロセスの一部であって、それを実行し進捗管理し、また進めていくという長い道のりがあるわけです。そこで基本計画の柱立てとして考えております藤沢全体の「藤沢づくり」と、13地区ごとの「地域づくり」を進めていくための仕組みと進め方をどう整理したらいいかというのが重要になってきます。まず、藤沢づくりの制度設計に当たっての課題は、全市の基本計画も3年ごとのローリングになっていますので、当然、戦略目標に対する成果指標が設定されて施策には「めざそう値」、目標と誰がそれを担うのかというのが明らかになっていて、3年に1回PDCAサイクルで見直していくということは、藤沢市も毎年、市民等の意向を確かめるような満足度調査も行ったり、指標の現状値を確認しながら分析検証という作業があります。

それから実施計画も同じです。3年で達成するアウトカム指標に基づき1年ごとにPDCAに基づいて進捗管理をする。したがって、毎年6月には、前年度事業の評価を行い、総合計画予算も毎年ローリングして入れ込んでいかなければならない。そのためには成果がどうだったか常に確認していく。こういうことをやっていくには、どうやって満足度や実現度や達成度を検証していくのか。あるいは市民、ボランティア、NPO、大学、企業とどういうふうに連携していく公民連携の仕組みを今後つくっていくのか。どういうふうに藤沢づくりを進めていくための情報発信や情報共有をしていくのか。3年ごと、1年ごとのローリングをしていくときに民意をどう反映させるのか。さらに地域内分権を豊かなものにしていくために、どういう仕組みを考えていくかは大きな課題です。

一方、地域まちづくり計画においても、3年ごとにローリングしていく

わけですから、当然、「めざそう値」があって、誰が担っていくのか。それを2年目には見直していかなければならない。実施計画もそうです。3年で達成するアウトカム指標に基づいて、1年ごとに進捗管理を行う。ですから、市民センターと地域経営会議も含めて毎年度6月には、前年度事業を検証し報告をしていく。当然、地域の満足度をどうフォローアップしていくのか。こういうものを動かしていくために、あるいは緩やかに進めていくために仕組みとして満足度の把握、市民の声をどう聞いていったらいいのか、あるいは実施計画を毎年度検証していく仕組みを公平にどうやっていったらいいのか。あるいは地域の皆さんと市民センター・公民館がどういうふうに情報発信や情報共有をしていったらいいのか。あるいは13地区ごとに進めていく独自のまちづくりの中で地域、市民、ボランティア、大学、企業がどういうふうに連携して進めていったらいいのか。それから市民センターに管理が移譲されている市民の家等々の公有資産をどう有効活用していったらいいのか等、基本計画ができると次のステップに入っていく。こういうことも含めて「私たちの政府」による藤沢づくりを進めていく仕組みや進め方をどう整理して、どういう枠組を提案していったらいいのか、きょうも含めて何回か議論をいただきながら、整理をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

曾根会長

藤沢が基本的にとる立場というのは、日本の地方分権を進めるためには基礎自治体が強くないといけない。基礎自治体に分権すればすべて済むという話ではないでしょう。基礎自治体の中の仕組み、特に従来からあった二元代表制の仕組みも含めて「新しい公共」を加味して、「私たちの政府」という制度設計がどうやってできるかは大きな課題です。これが総合計画審議会が出した基本構想のアイデアです。とはいうものの日本全国さまざまな試みがなされているけれども、まだ完結された成功例はないと思うんです。新しい公共とは言うけれども、まだまだ議論のプロセスでの話であって、地域内分権というのも議論の端緒についたばかりであるし、先行的に名古屋市が始めて、今大変な状況が起きているとか、いろいろ試行錯誤されているけれども、藤沢は着実にそれを進めていきたいと思います。その組み立てのときにここをどういう形で設計すると、「私たちの政府」というのがうまくでき、総合計画の実施が可能になりますと、だからこれは決定の仕組みの方であって、何を決定するかという中身の話をきょうは議論していたわけですから、未来課題、未来計画というのはたくさんあるわけです。それを現実に市民の立場から、例えば町内会がありました、あるいは市民センターというのもありました、あるいは4年に1度の選挙で市議会、市長を選ぶ制度がありますが、それ以上あるいはそこで不足の部分

を考えなければいけない時期なのではないか。それは国から地方への地方分権だけではなくて、基礎自治体の中の分権も制度設計が必要なのではないかというのが議論の背景だろうと思います。ですから、答えが全部出ていて、よそでうまくやっているからうちでもやりましょうという話ではなくて、かなり先進事例としてこれから藤沢が取り組んでいきますと、そういう意味では試行錯誤的な要素もあり、実験的な要素もありますが、逆に言えば、それを藤沢の誇りとして他に先駆けてリスクを覚悟でやりましょうということではないかと思うんです。事務局の説明と若干の補足について、ご意見・ご質問がありましたらお願いいたします。

この問題はきょうでお終いということではございません。大変重要なもので、引き続き議論していきたいテーマです。確かに「分権」という言葉で言いますと反対する人はいないのですが、具体的に分権というと、そう簡単ではなくて、負担も増えるということだったら、もういいという意見になってしまうかもしれないし、その仕組みがないと参加しようと思ってもできないというご意見もあると思いますので、特に新総合計画の中の内実を充実させるために地域づくり、あるいは制度設計をうまくつくり上げたいということです。

ほかに事務局の報告はありますか。

事務局
曾根会長

ございません。

それでは、議事については終了いたします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

曾根会長
事務局

その他について、お願いします。

次回の審議会は7月3日(土)午前10時から、場所は明治市民センター・公民館です。午後は100人委員会との合同協議を予定しております。詳細は別途ご案内させていただきます。

曾根会長

以上で、第11回総合計画を終了いたします。

午前11時55分 閉会

各会議体の会議開催状況について

1 藤沢市議会議員全員協議会

(1) 開催概要

ア 日時

2010年6月25日（金） 午後1時30分～2時5分

イ 場所

藤沢市議会議場

(2) 開催結果

ア 新総合計画策定の取組について

新総合計画基本計画策定のための会議開催状況等について説明した。

イ 基本計画策定の中間報告について

基本計画策定の中間報告として、「ふじさわ未来課題」、「ここに重点！未来へのステップ調査」の概要、「重点・ふじさわ未来課題」の抽出、全市と地域で検討する「ふじさわ未来課題」の仕分けについて説明した。

2 第10回地域経営戦略100人委員会

(1) 開催概要

ア 日時

2010年6月5日（土） 午後2時～4時

イ 場所

長後公民館体育室

(2) 開催結果

ア 基本計画の検討について

「ふじさわ未来課題」の抽出経過、「ここに重点！未来へのステップ調査」実施概要、及び「重点・ふじさわ未来課題」の選定に向けた取り組みの整理について説明した。

イ 重点・ふじさわ未来課題の分析と目標・指標設定について

「重点・ふじさわ未来課題」の「目標」「指標」「活動」設定について説明し、作業を行った。

(3) 今後の予定

「気づき」の深掘り結果を踏まえて、設定した目標（地域まちづくり目標・戦略目標）について、合同協議での総合計画審議会及び地域経営戦略100人

委員会委員からの意見提案を踏まえ再検討する。

また、活動の指針、指標等の設定についての検討を進め、基本計画案を起草する。

3 地域経営戦略100人委員会分科会

(1) 開催概要

ア 日時

2010年6月29日（火） 午後7時～8時40分

イ 場所

藤沢市役所新館7階第7会議室

(2) 開催結果

ア 「重点・ふじさわ未来課題」の選定

地域経営戦略100人委員会分科会（5月31日開催）及び第10回地域経営戦略100人委員会での検討を踏まえ事務局にて策定した「重点・ふじさわ未来課題」についての意見交換を行った。

イ 戦略目標及び政策の検討

戦略目標案及び市の各部局より提案された政策内容についての意見交換を行った。

4 第9回庁内新総合計画検討会議

(1) 開催概要

ア 日時

2010年7月1日（木） 午前9時～10時

イ 場所

藤沢市役所本館2階経営戦略会議室

(2) 開催結果

市域全体のまちづくり計画に係る戦略目標及び政策の検討を行った。

(3) 今後の予定

庁内各部門に戦略目標案、政策及び指標についての検討、精査を行う。

5 第11回・第12回わいわい・がやがや・わくわく会議の開催結果について

(1) 第11回会議

ア 開催概要

(ア) 日時

2010年5月31日（月） 午後2時30分～4時30分

(イ) 場所

藤沢市保健所3階大会議室

イ 開催結果

(ア) 理想の市民センター・公民館に関する意見交換の結果を踏まえ、実現するための資源、活動、効果等について検討、準備、運用、発展の時系列に整理し分析した。

(イ) アウトカム指標について、ロジックモデルに基づく検討を行った。

(2) 第12回会議

ア 開催概要

(ア) 日時

2010年6月28日（月） 午後2時30分～4時20分

(イ) 場所

藤沢市保健所3階大会議室

イ 開催結果

(ア) 理想の市民センター・公民館に関して、発展的に目指す姿（効果）を収束し、そこから導かれる活動の目標を検討した。

(イ) 副読本に関して、表現方法、媒体等についての検討を行った。

(3) 今後の予定

効果を収束した中で、公民連携を前提に、資源、活動、効果等の側面から行政が担うべき役割、組織体制のあり方についての詳細分析を行う。

また、基本構想を読み解き、より効果的な副読本の構成等について検討する。

戦略目標及び戦略目標の説明について

【都市ビジョン1】 市民生活の力が育てる生活充実都市

1 地域自律型の「藤沢づくり」を育むまち

地域の歴史・文化や地域資源を活かして、地域に住み、働き、学ぶ人たちが協働して、地域から生み出す付加価値を享受するために、各地区ごとに個性のある地域経営を進めるとともに、行政は財政改革と行政改革を進めるとともに、新たな行政システムを構築し、市民、地域と協働して市民主体、地域自律型の「藤沢づくり」をめざします。

<行政政策の棚卸内容>

- ・ 市民が生活の中でITの利便性を実感できること。
- ・ 市民に信頼され、効率的、効果的な行政サービスを実現すること。
- ・ 地域で協働して、暮らしやすいまちがつけられること。
- ・ 地域主体のまちづくりが推進されること。
- ・ 誰でも気軽に市の情報を得られること。
- ・ 様々な連携によって、市民が望むサービスがまちにあること。
- ・ いろいろな人が公共サービスを提供し、生活が便利になること。
- ・ 市民のプライバシーが保護されること、
- ・ 多くの市民が市政に参加できること。
- ・ 地区毎のきめ細かなまちづくりが行われること

ふじさわ未来課題 5_地域で協働して、暮らしやすいまちづくり活動が行われていること

戦略目標 01_市民、地域と行政が育む、暮らしやすさを実感できるまち

少子化、高齢化と人口減少社会の到来により、今までの経済成長や税収の伸びを前提にした社会資本の整備、多様化する市民ニーズや生活の豊かさを、すべてを行政が主体となって実現していくことは大変困難な状況となっております。

これらの状況を解決していくためには、「私たちの政府」が創る藤沢づくりの理念のもとつき、新しい公共と地域分権を築くことにより、20年後を見据えた豊かな公共が実現されます。

そのためには、藤沢の持つ市民力・地域力を活用し、かつ藤沢の魅力を高め、価値を創造することによって、藤沢力を磨き、鍛えていく必要があります。

私たちは、29年に及ぶ市民自治の実績に基づき、市民、市民ボランティア、NPO、大学、企業と行政が協働・連携し、新しい地域経営を実現することによって、生活実感のある暮らしやすさの向上と持続可能な藤沢づくりを進めていきます。

<各部門の政策案>

- ・ 地域の様々な主体および行政が、相互に連携、協働して情報化を推進することにより、市民サービスの向上や業務の効率化を図る。
- ・ 既存広報メディアの再評価及び新たな広報メディアの活用により、広報活動の再構築を図り、市政情報の積極的な発信を行う。
- ・ 市民生活を豊かにするため、市民活動が活発に行われるよう、市民活動団体を育成、支援する環境を整備する。
- ・ 13地区の地域経営会議の円滑な運営を図り、それぞれの地区で地域主体で、地域の個性を生かしたまちづくりが推進できる環境を整える。

ふじさわ未来課題 7_お互いがマナーを守り、助け合いの心で過ごせるまちであること

戦略目標 02 未来を拓く「藤沢づくり」を支える新しい公共のまち

豊かな公共をめざして、未来を拓く藤沢づくりを実現していくためには、行政経営という新しい発想が求められています。

行政経営とは「画一から多様」「集権から分権」「管理から自治」「受動から能動」「模倣から創造」「依存から自律」「個から連携」へ理念、手法を転換することです。

そのためには、行政は行財政改革、新しい公共と公民連携、クリーンな市政と情報開示、スクラップ・アンド・ビルド改革など推進し、行政自らが変革を図ります。

また、近隣自治体との広域連携や市民・地域と行政の協働のしくみづくりを通じて、市民主体、地域自律型の藤沢づくりをめざします。

<各部門の政策案>

- ・ 施策又は事業に応じた連携主体、連携体制を構築し、効率性や市民への効果等を鑑み、一層の連携を進める。
- ・ 市民共有の知的資産としての公文書等の適正な保存管理と利活用を図り、公正かつ効率的な市政運営に資するとともに市の有するその諸活動を現在及び将来の市民に説明する責務が全うされるようにする。

2 明日の藤沢を担う「藤沢の子どもたち」を育む環境

明日の藤沢を担う「藤沢の子どもたち」を育てていくため、安心して子どもを産み、育てられる生活環境や多様な教育ニーズへの対応、家庭・地域・学校の教育連携など、教育環境を持続・発展させることをめざします。

<行政政策の棚卸内容>

- ・ 援助の必要な児童とその家庭に適切な支援が行き届くこと。
- ・ 安心して子どもを産み健やかに育てること。
- ・ 青少年が自ら学び、社会に参加し、さまざまな人と協働しながらコミュニティを形成し、担っていく存在に育っていくこと。
- ・ 「愛と信頼にあふれ 子どもが健やかに育つまち ふじさわ」を構築すること
- ・ 学校からの情報発信が促進され、地域との連携がより強化されること
- ・ 給食をとおした食育の充実を図り、学校給食から「健康都市ふじさわ」が実現されること。
- ・ 多様な教育的ニーズに応じられる教育環境の整備がなされること
- ・ 質の高い教師が育成されること
- ・ 地域の教育力の活用と子どもたちの生きる力を育むこと
- ・ 教師が子どもに向き合う時間が確保されること
- ・ 学校からの情報発信が促進され、地域との連携がより強化されること
- ・ 各学校における特別支援教育体制の充実と、多様な教育的ニーズに応じられる教育環境を整備すること
- ・ こどもたちが健全に成長することで、力強く明るい社会が実現されること。
- ・ 地域を愛し、社会に貢献できる子どもを育成すること

ふじさわ未来課題 8_市民自ら、人にやさしい手をさしのべること

(関連未来課題 9)

戦略目標 03_子どもを安心して産み育てられるまち

少子化の進展は、労働人口の減少や経済の停滞等を生じ、地域構造のバランスを崩し、藤沢全体に様々な影響を及ぼします。

明日の藤沢づくりの担い手は、子どもたちです。

子どもを安心して産み育てられるまちにしていくためには、子育ての不安を解消し、安心して子どもを産み、育てられる生活環境や多様な教育ニーズへの対応が求められています。

そのためには、市民・地域と行政が協働・連携して、明日の藤沢を担う子どもたちが元気に育つ環境、子育て支援のしくみ、教育環境などを形成することによって、子や孫やこれから生まれてくる子どもたちのための藤沢づくりを進めます。

<各部門の政策案>

- ・ 安全な妊娠・出産から子どもの心身の健やかな発達の支援に向けた取り組みを推進し、親子の健康の確保と増進に努める。
- ・ 虐待や障がいなど、特別な関わりが必要な児童や家庭への連携した相談支援を推進する。
- ・ 地域における子育て支援サービスや保育サービスを充実し、子育て支援のネットワークづくりや児童の健全育成を進め、すべての子育て家庭への支援を充実する。
- ・ 児童生徒が生きる力を身につけ、健やかに成長するよう学校教育の充実を図るとともに、開かれた学校づくりを推進する。
- ・ 児童・生徒等の安全と快適な教育環境を確保するとともに、省エネ化・低炭素化の時代に対応した校舎等へ改築や整備を進める。

ふじさわ未来課題 14_学校・家庭・地域のつながりを育む活動が活発であること

戦略目標 04_身近な場所で地域ぐるみの子育てができるまち

核家族化の進展、一人っ子世帯の増加、働きながら子育てをする家庭の増大など、子育てをする家庭環境は大きく変貌しています。

また、高齢化社会の到来によって、地域にはたくさんの子育ての経験豊かな市民も多くいます。

明日を担う子どもたちは、藤沢の財産です。

このような地域社会の状況変化を踏まえ、子育ては家庭はもとより、地域や学校、多くの市民や地域を支える自治会・町内会、ボランティア、NPO、教育機関、企業などと行政が連携・協働して、子どもたちを地域ぐるみで育て、教え、見守る子育て支援のしくみづくりが求められています。

また、青少年育成のためには、市民力・地域力・教育力を活かして、青少年の健全育成のための環境づくりを進めていきます。

<各部門の政策案>

- ・ 市民力・地域力を活かした青少年の健全育成のための様々な活動により、青少年の豊かな心と生きる力を育む。

3 市民力・地域力による安全で安心して暮らせるまち

コミュニティを維持・発展させ、市民が一生安心して暮らせる保健・医療（介護）・福祉・健康などの生活環境と、犯罪や災害への不安解消などによる、安全で安心できる地域社会を創り上げることをめざします。また、病気の予防やスポーツなどを通じた身体的な健康のみならず、心も健やかであるために、生き生きと安心して暮らせる私たちの健康づくりをめざします。

<行政政策の棚卸内容>

- ・ 市民力・地域力である地域防災力により、安全で安心して暮らせるまちであること。
- ・ 犯罪機会論による防犯活動の推進
- ・ 自立した消費者の育成
- ・ 安全な近隣社会の構築の推進
- ・ 迅速に適切な医療が受けられること
- ・ 高齢者や障がい者等が、地域の協力により安心した生活を営むことができること。
- ・ 在宅による看護や介護を市民が安心して受けられ、安定した市民生活を送れること。
- ・ 障がいのある人が地域で生きいきと暮らすことができるようになる
- ・ 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせること。
- ・ 健康増進と安全の確保がはかられること。
- ・ 生活困窮者が最低生活を営むことができ、就労支援により自立の助長が図られること。
- ・ からだも心も元気であること、自分自身が健康だと思えること。
- ・ 高齢者が一生安心して自立した生活を営むことができること。
- ・ 住宅困窮者の多様化と住宅セーフティネットの進化
- ・ 市民が安全で安心して暮らせるまちとなること。
- ・ 安全・安心の都市づくりに対する満足度のあり方
- ・ みどり豊かな憩いと潤いのあるオープンスペースづくり。
- ・ いつでも、だれでも、どこでもスポーツを楽しみ、健康づくりができる環境
- ・ 市民力・地域力により良好な住環境を確保することなど、市民主体のまちづくり活動が行われること
- ・ 健康で生活できること。
- ・ 災害時の避難場所を確認しあうこと。
- ・ 近隣市町と連携して、効果的、有効的に公共資産（消防力）が活用されること
- ・ 市民、地域、企業等と連携して、災害被害を減災すること
- ・ スポーツを通じて体力や競技力の維持・向上を図り、全ての市民が明るく、健康的な生活を送れること。
- ・ こどもから大人、高齢者までが、スポーツを通じて、明るく健康な生活を送れること。
- ・ 施設の整備、体制強化を図り、滞りのない火葬執行体制を提供すること。

ふじさわ未来課題 18 災害に対して、市民が不安なく暮らせるまちであること

(関連未来課題 19)

戦略目標 05 災害や犯罪に対して不安なく暮らせるまち

コミュニティを維持発展させ、市民が安全・安心に暮らせる藤沢づくりは重要な課題です。

地球環境や自然環境の変化によって、地震、津波、風水害などの災害や都市構造の変化、高齢化社会の到来などにより、様々な災害の要因が生まれています。

また、核家族化、高齢者世帯や共働き世帯の増加、都市環境・都市活動の変化などが要因となって、様々な犯罪も発生しています。

更に、自動車社会の進展により、多様な交通事故や交通問題が惹起しています。

身近なコミュニティにおいても、人と車、自転車が共存する安全・安心な環境が求められています。

そのためには、市民・地域と行政が協働・連携して築き上げてきた防災力を活かして、災害に対しての備えや被災したときの体制、緊急支援活動の充実によって、生活の不安を解消し、日常生活においても安全・安心な体制づくりをめざします。

加えて藤沢の持つ消防力、救急力を活かし、かつ近隣の市町との消防広域連携によって火災予防、火災対応を充実させ、機能強化を図ります。

また、事故や犯罪についても、市民・地域と行政が協働・連携して、築き上げてきた安全・安心のしくみを活かして、更なる地域ぐるみでの安全・安心な環境づくりをめざします。

<各部門の政策案>

- ・ 地域市民と各地区防災拠点との連携により、藤沢市全体の地域防災力の強化を図る。
- ・ 現在の消費生活相談体制に加え、巡回相談や拠点となる市民センターで相談を開催し、相談の充実を図り、さらに市民への情報提供を行い、啓発強化に努める。
- ・ 市内14地区の防犯計画に基づき、警察や関係団体と連携した地域防犯活動などの防犯対策に取り組むことにより、市内の刑法犯認知件数の削減を目指す。
- ・ 住宅の耐震診断を実施し、必要に応じた耐震改修や建て替えを促進し、住宅の耐震性を確保するとともに、土砂等災害が生じるおそれがある区域指定（県知事指定）、住民への情報提供を行うなど、災害の予防を図る。公共施設については主管課にて施設の全体計画を立て、計画に合わせた補強計画を検討し実施を図る
- ・ 河川・下水道、さらには歩道設置等の都市基盤施設の整備・改良の推進により、浸水・地震対策等の自然災害や交通事故等の都市災害に強いまちづくりを実現する。
- ・ 消防施設や消防装備の効果的な整備及び消防職員のレベルアップに取り組み、消防力の向上を図る。
- ・ 各地域に住民も使用できる防災資機材を配備し、地域防災拠点の整備を図る。また、市民に対する救命講習に加え、市内市立中学校に対する応急手当教育を実施し、応急手当の普及啓発を推進する。

ふじさわ未来課題 23.福祉が充実し、子どもから高齢者まで守られていること

(関連未来課題 17)

戦略目標 06.保健, 医療, 福祉, 健康などの生活環境が整ったまち

すべての人が生涯を通じ、いつまでも住み慣れた地域で、からだも心も元気で、いきいきと暮らし続けることは、私たちの願いです。

この願いを実現するため、市民・地域と行政が協働し、病気の予防や心も健やかであるための健康づくりを進める必要があります。

市民は、生涯を通じた健康を自らつくり、家庭ではぐくむとともに、地域では、人と人とのつながりや地域の活力をいかして、互いに健康を支え合うことが大切です。

行政は、市民・地域の健康を支えるために、保健・医療（介護）・福祉・健康・食育・スポーツ・安全・安心な環境づくりを推進していきます。

また、少子高齢化社会の到来を踏まえ、皆が明るく豊かで生きがいを持って、生き生きとした生活を送ることができるよう、生活者の実感を大切にしながら、市民・地域と行政が協働・連携して、保健・医療（介護）・福祉・健康などの新たなセーフティネットの構築も進めていく必要があります。

<各部門の政策案>

- ・ 障がいのある人が地域で安心して暮らせるよう、障がいのある人や家庭への支援を充実する。
- ・ 高齢期の生きがい確保と自立への支援を推進するとともに、地域福祉サービスの質的向上と多様性の推進を図る
- ・ 健診体制の充実と市民が取り組む健康づくりを支援するとともに、ウィルス検査体制の充実など保健所機能の強化を図る。
- ・ 2市1町を中核とした各医師会を基盤として、公立病院に徳州会病院を加えた拠点病院を中心に、周産期医療(救急を含む)や災害時救護体制を整備する。
- ・ また、医療従事者の確保を図るため、2市1町を含めた広域連携により対策を取るとともに、国(地域医療再生計画等)、県とともに事業展開を図る。
- ・ ①住宅に困窮する低所得者(社会的弱者)が、安全・安心な自立した生活を過ごせること。
- ・ ②住宅困窮者の多様化と多様化する住宅ニーズへの対応。
- ・ スポーツイベントの充実及びスポーツ施設の整備を推進し、市民のスポーツ実施率を高め、健康体力の維持増進と競技力の向上を図る。

【都市ビジョン2】 地域から地球に広がる環境行動都市

4 共に生き、共に創る地域社会の創出

すべての市民が、差別や偏見を持つことなく、互いを認め合い、共に生き、働き、学ぶことができる豊かな生活環境を実現するため、それぞれの人権を尊重し、男女が共同で参画し、高齢者、若者なども積極的に参画できる、多文化の共生する穏やかな地域の社会環境を創り出すことをめざします。

<行政政策の棚卸内容>

- ・ 人と動物が共生できること。
- ・ 読みたい、知りたい、学びたい、聴きたい、観たい、交流したい、参加したい…市民が望む豊かな図書館サービスを創出すること。
- ・ 生涯学習によって誰もが参画・参加できる社会をつくること
- ・ 地域の大人たちみんなで子どもを育む社会をつくること
- ・ 学びたいときに・学びたいことについて必要な情報が得られること
- ・ 市民の生涯学習ニーズに対応した生涯学習情報の提供ができること。
- ・ 施設利用者が安全に、そして安心して学習活動ができること。
- ・ いつでも、どこでも、だれでもが必要な情報が入手できること
- ・ 近隣市町等との連携、関係機関とのパートナーシップに基づき、若年者、障がい者、ニート・フリーターが就労等社会的自立に向けた多様なサービスの充実が図られること。

ふじさわ未来課題 24_挨拶や声かけによる市民同士のコミュニケーションがとれていること

(関連未来課題 26, 29, 31)

戦略目標 07_一人ひとりの個性を尊重し認め合う、心の通うまち

国際化や価値観の多様化、ひとり暮らし世帯の増加と核家族化の進展の中で、市民一人ひとりの個性と人権が尊重され、認め合うことで、心豊かな社会や生活環境の価値向上がいま求められています。

家庭内暴力やいじめ、差別、セクシャルハラスメントなどがなく、ワークライフバランスや男女共同参画社会などの実現を図るためには、性別、世代、格差、国籍、ハンディキャップなどを超えて、互いに尊重し、共に生き、共に創る地域社会を創出していく必要があります。

そのためには、市民・地域と行政が協働・連携して、一人ひとりの個性を尊重し、人権を認め合い、多文化が共生し、男女共同参画をめざした藤沢づくりを進めます。

<各部門の政策案>

- ・ いじめや差別、暴力などがなく、性別、世代、格差、国籍、ハンディキャップを越え

て、互いに尊重し、共に生き、共に創る社会を推進する。

ふじさわ未来課題 32_人々が交流して、平和でぬくもりのある社会であること

戦略目標 08_人々が交流して、平和でぬくもりのあるまち

平和な社会は、藤沢市民の願いです。

藤沢市は、「藤沢市核兵器廃絶平和都市宣言」や「藤沢市平和基金条例」「藤沢市核兵器廃絶平和推進の基本に関する条例」を制定し、市民・地域と行政が協働・連携して、恒久平和をめざして、様々な平和運動を推進してきました。

また、航空機騒音などに対する諸問題解決に向けて、様々な活動も進めてきました。これまで蓄積してきた平和などに対する思いをさらに深化させていく必要があります。

一方、藤沢は様々な海外都市との交流をはじめ、都市間交流も活発に行われてきました。

藤沢に生きた人々の歴史とそこから生まれた文化を探求し、継承するとともに、多文化が織りなす交流を通じて情報を共有し、地域ぐるみでの交流活動をさらに発展させ、新しい文化交流へとつなげていくことが求められています。

市民・地域と行政が協働・連携して、都市間交流を活発化させ、海外都市、外国籍市民との交流によって、多文化が共生し、平和で穏やかな地域社会を創り出す藤沢づくりを進めます。

<各部門の政策案>

- ・ 市民・市民ボランティア・NPO・大学・企業等と行政が協働する事業展開により、国際交流の活性化を図る。

ふじさわ未来課題 34 地域で支え合い暮らせる環境であること

(関連未来課題 30)

戦略目標 09 地域で支えあう共生するまち

地域分権を通じて、地域で支えあう共生するまちを実現していくためには、藤沢の市民自治の歴史と蓄積を活かし、市民・地域が協働・連携して、地域コミュニティを豊かにしていく市民主体のまちづくりを進めていくことが重要です。

そのためには、市民一人ひとりの支えあい、自治会・町内会など身近な地域での支えあい、ボランティア団体、NPO、大学、企業などによる社会貢献活動が相互に連携・補完する、個性豊かで地域が生き活きとした、生涯を通じて一人ひとりが生きがいを持って暮らすことができる藤沢づくりを進めます。

また、行政は、地域で支えあい共生するまちを実現するために、地域に根ざした市民ボランティアやNPOなどを育成し活動を支援するための様々なしくみを構築します。

<各部門の政策案>

- ・ 地域とのつながりの中で、誰でもが自分らしく暮らせるよう、地域に根ざした市民ボランティアやNPOを育成・活動支援する。
- ・ 「市民主体による運営」を推進するとともに、「だれもが・いつでも・どこでも・学びたいことが学べる」学習環境の整備を図る。
- ・ 学校・家庭・地域の連携を促進し、地域のつながりを育む活動を支援する。

5 豊かな地域資源の次世代への継承・発展

藤沢の自然環境、景観、歴史・文化資産など、先人から引き継いできた地域固有の資源をさらに発展させ、次世代に継承することによって都市としてのアイデンティティを高め、地域資源を活かしたまちをつくることをめざします。

<行政政策の棚卸内容>

- ・ すべての市民が明るく、文化的な生活の中で、一生住み続けたいと思えるような社会が実現すること
- ・ 歴史文化が継承され、創出されること。
- ・ 市民主体のまちづくりを進め、良好な景観形成を図ると共に湘南海岸などの観光地として魅力を高めること。
- ・ 農・工・住が共存する環境と共生したまちづくりを進め、良好な景観形成を図ると共に湘南海岸などの観光地として魅力を高めること。
- ・ いつでも地域の文化遺産にふれることのできる博物館・収蔵施設があること。
- ・ 地域の歴史・文化が継承されること
- ・ すべての市民が明るく、文化的な生活の中で、一生住み続けたいと思えるような社会が実現すること。
- ・ 文化の薫るまちづくりにより、子どもから大人まで心豊かな生活を享受し、一生住み続けたいまちづくりを行うこと。

ふじさわ未来課題 37 市民、地域、行政が協力し、快適な生活が実現していること

(関連未来課題 35, 36, 39, 49, 41, 43)

戦略目標 10 豊かな自然環境と地域資源を守り発展させ、次世代に継承するまち

藤沢には、湘南海岸や引地川、境川の水辺環境、川名緑地をはじめとした里山がいまに残る三大緑地などの自然環境、北部を中心とした自然豊かな田園環境、また地域の歴史や文化に育まれた次世代に継承する大切な地域資源があります。

これらの地域資源は、長い年月を経て先人たちが創り、育て、守ってきた、貴重な市民共有の財産です。

これらの地域資源を保全、再生、発展、継承することにより、湘南の自然環境と歴史文化がいきづく、将来にわたって住み続けたい、藤沢に住みたい、藤沢で活動したいと感ぜられる藤沢づくりを進めます。

<各部門の政策案>

- ・ 市内に残された三大谷戸をはじめとする貴重な緑地を（制度の導入を図り）保全。

戦略目標 11_愛着と誇りの持てる景観の保全と創造するまち

藤沢の自然、歴史、文化の蓄積と市民との協働によるまちづくりの進展、都市魅力の発信によって、湘南藤沢のイメージが培われてきました。

その反面、地域の個性や愛着、アイデンティティが見えにくい側面も生まれています。

愛着と誇りの持てる景観の保全と創造のまちを実現していくためには、都市全体を印象付ける自然環境や都市環境を保全、形成していくとともに、ブランド力により磨きをかけ、かつ身近な地域での愛着と誇りを感じる地域景観の保全、形成を進めていく必要があります。

藤沢で培ってきた景観づくりや自然環境の保全、形成のしくみや蓄積をさらに深化させ、様々な人々を湘南藤沢に惹きつけていく魅力を高めるために、市民・地域と行政が協働・連携して、景観の保全と創造による藤沢づくりを進めます。

<各部門の政策案>

- ・ 地域住民の発意と合意により、都市計画法、景観法、建築基準法等を活用し、地域の特性を生かした良好な住環境の維持・保全や調和のとれた景観づくりを促進する。

ふじさわ未来課題 45_地域の未来の担い手が育成されていること

戦略目標 12_未来の担い手が育つまち

藤沢には、市民力、地域力が満ち溢れています。

この藤沢の大切な「力」を活かして、次世代の藤沢づくりの担い手を生み、育て、引き継いでいくひとづくりが、いま求められています。

未来の担い手が育つまちを実現していくためには、様々な人生を経験してきた市民の経験力、地域の文化を継承、発展させてきた地域の継承力、ボランティア、NPO活動によって培われてきた地域貢献力、大学、企業などが地域と協働する社会貢献力、これらを支える行政力などが必要です。

このような「力」が協働・連携し、子どもたちやすべての世代が、未来のまちの担い手として活躍できる活動を推進します。

<各部門の政策案>

- ・ 新総合計画で掲げる持続可能な市民主体のまちづくりを進めるための担い手の育成を図る。

6 地球温暖化防止など未来の地球環境への投資

地球温暖化などの環境問題やエネルギー・食糧などの資源にかかわる課題について、地球規模の視点に立って地域で取り組み、持続可能なまちと低炭素社会をつくりあげることがめざします。また、地域の大学力や企業力を活かして、産学官による協働と連携によって、最先端の環境技術を生み出す産業構造や環境に優しい都市システムを創り出すことをめざします。

<行政政策の棚卸内容>

- ・ 良好な生活環境が確保されること。
- ・ 海・里山・川の自然に触れること
- ・ 環境負荷の軽減，次世代に向けてみどりを守り，増やす。
- ・ みどりを守る，つくる，育てる，広めること。
- ・ 温室効果ガスの削減により持続可能な低炭素社会に向け活動を続けること。
- ・ 次世代へ自然景観を引き継ぐこと。

ふじさわ未来課題 49_人々の環境への意識が高く、快適なまちであること

戦略目標 13_環境への負荷を軽減し、未来につなげる循環型社会の実現に取り組むまち

湘南の豊かな自然、環境、文化を次世代に継承していくためには、「将来世代へのニーズを損なうことなく、現在の世代のニーズを満たすこと」を基本にして、地球規模の視点に立って、地域で取り組む循環型社会の実現がいま求められています。

そのためには、市民・地域と行政が協働・連携して、未来につなげる循環型社会のしくみづくりが必要となります。

また、近隣市町との広域連携によって、環境への負荷を軽減するための、様々な施策の共有を図り、実践するとともに、身近な生活や都市活動の中から環境を考え、自らが実践することによって、持続可能な循環型の藤沢づくりを進めていきます。

<各部門の政策案>

- ・ 近隣市町との広域的連携により，環境に配慮した廃棄物処理施設の建設及び施設を利用した3Rの推進を図る。

戦略目標 14 地域から低炭素社会をめざし、行動するまち

地球温暖化などの環境問題やエネルギー問題など資源に関わる問題は、喫急の課題です。

この課題を解決していくためには、省エネ、創エネ、蓄エネ、活エネ、エネルギーマネジメントの視点に立って、市民、ボランティア活動団体、NPO、大学、企業などと行政が協働・連携して、自らができることから実践し、その積み重ねが地域に広がり、環境ネットワークを構築し、かつ新たなエネルギー技術とITによるしくみを創出することにより、地域から低炭素社会をめざした藤沢づくりを進めていきます。

<各部門の政策案>

- ・ エネルギーの効率化と代替化の推進し、次世代型のエネルギー利用社会へとシフトする。

戦略目標 15 環境に優しい都市システムを創造するまち

公害の防止、廃棄物の発生の抑制と減量化、資源の循環利用、廃棄物の適正処理と環境美化及び化石燃料を消費する交通システム、家庭、事業所における温室効果ガスの排出削減、公共用水域の水質保全など、都市環境に影響する様々な環境問題が惹起されています。

この問題を解決するためには、市民・地域と行政が協働・連携して、環境にやさしい都市システムを創造していく必要があります。

<各部門の政策案>

- ・ 地域市民やNPO団体等との様々な連携により、環境美化の推進と意識啓発を図ることで、市民生活の質を高める。
- ・ 地域市民やNPO団体等及び事業者との様々な連携により、徹底した廃棄物の発生抑制と減量及び新たな技術の導入による資源化の推進を図る。
- ・ 大気、公共用水域、地下水の環境基準を達成している項目については継続して環境基準の達成を維持し、未達成の項目については環境基準を達成する。
- ・ 公共下水道（污水管・浄化センター等）整備、合併処理浄化槽の排水処理施設の整備・普及により、水再生・水循環型都市づくりを実現する。

【都市ビジョン3】 さらなる可能性を追求する創造発信都市

7 「藤沢づくり」を支える都市構造の再構築と地域経済の活力再生

産業や生活の基盤を支える都市機能を強化していくために、新たな拠点地区の整備や連携する道路、鉄道等の公共交通、海上交通のネットワーク化など、土地利用の方向性も含んだ「新たな都市構造の再構築」をめざします。また、産業の活力を高め、雇用の機会を増やし地産地消の推進を図るため、市民、地域の持つ資源を活かしつつ、商業、工業、観光、農水産業など、市民力、地域力、大学力、企業力などの連携によって地域経済の活力再生をめざします。

＜行政政策の棚卸内容＞

- ・ 歩道が広く安心して歩くことが出来ること。
- ・ 新鮮で安全・安心な農産物を市民に提供することで、地産地消を推進し、農業者の経営安定を図り、市民の食生活をささえることができること。
- ・ 時代に即した交通体系の実現に向けた取組を進め、市民の重要な移動手段である公共交通の安定した供給がなされ、道路や交通のネットワーク整備されることにより、快適な移動が確保されること。
- ・ 農・工・住が共存する環境と共生したまちづくり
- ・ 広域連携による交通のネットワーク化 雇用機会の確保
- ・ 「観光立市 湘南藤沢」の継続的な発展により地域経済が活性化すること。
- ・ 研究開発型の新たな産業集積に取り組むと同時に地元中小企業がいきいきと活躍できるように支援することによって地域経済をもっと活性化すること。
- ・ 地域コミュニティの中心的存在としての機能を市内各商店街が取り戻すとともに、市内商業全般の活性化が図られること
- ・ 藤沢の中心地として、ふさわしい機能、賑わいを取り戻すこと。
- ・ 市街化調整区域の特定の幹線道路沿道等において、一定の土地利用を許容することにより、安定した農業経営が継続できること。
- ・ 既存の商店街と複合的・専門的な大型商業施設との共存
- ・ 広域的な都市機能の形成
- ・ 藤沢・辻堂・湘南台の各都市拠点を中心とした市民の利便性の向上
- ・ 藤沢駅を中心とした市民の利便性の向上
- ・ 災害に強いまちづくりとともに、環境やスポーツなどへの複合的な投資効果に寄与すること。
- ・ 持続可能な都市環境の構築により良好な生活環境が維持されること。
- ・ ライフサイクルコストを考慮した都市基盤整備により生活環境が向上すること。
- ・ 交通が便利なこと。
- ・ 広域連携による交通のネットワーク化
- ・ 雇用機会の確保
- ・ 近隣市や町と藤沢市が連携して、いろいろな行政サービスが受けられること。
- ・ 市内産業の活性化により市税収入が増となるよう、税制上の方策について検討する。

ふじさわ未来課題 61_観光により地域が元気になること

戦略目標 16_多様な地域資源を活かした観光立市のまち

藤沢は江戸の昔から「江ノ島詣」を通じて、江戸庶民の観光地として栄え、戦前戦後を通じて、歴史と文化の江の島、海洋レクリエーション拠点の湘南海岸を中心に首都圏の身近な観光拠点として、年間1,000万人を超える観光客が訪れる観光地として発展してきました。

近年の国民の観光・レジャーに対する多様なニーズの変化や、東南アジアを中心とした外国人観光客の増加などを踏まえ、観光立市としての新たな観光戦略が求められています。

そのためには、藤沢の自然、歴史、文化と今まで培われてきた交流文化、湘南ブランドを活用し、市民が身近なまちの地域資源や素晴らしさに触れ、余暇時間の活用や生涯学習などを通じて、市内観光の魅力を再発掘、再発見することが必要です。

また、湘南ブランドの魅力を高め、多様な地域資源と市民のおもてなし文化を通じ、南北縦断観光機能の強化によって、海外、国内からの観光誘客を図り、あわせて誘客観光産業を育成し、多様な地域資源を活かした観光立市のまちづくりを進めます。

<各部門の政策案>

- ・ 新たな観光資源の開発と外国人観光客の誘致活動を実施し、広く宣伝活動を行うことで誘客を図る。

ふじさわ未来課題 62_産業の活力を高め、地域が元気になること

(関連未来課題 59, 60, 64, 65)

戦略目標 17_新しい産業の興る活力あるまち

藤沢は、戦前戦後を通じて東海道沿線や北部地域を中心に、製造業を中心とした産業が立地し、日本でも有数な工業都市として発展してきました。

しかし、経済活動のグローバル化、産業構造の変化は、藤沢の製造業を中心とした産業構造にも大きな変化を与え、産業の空洞化による製造品出荷額の減少、雇用の減少による市民の働く場の喪失が生じています。

この問題を解決するためには、藤沢の持つ都市インフラなどの強みと、大学力、企業力、市民力を活かし、また今まで培ってきた多彩な人材、知財資源を活用して、ベンチャー企業、ソーシャルビジネスの育成や研究開発機関の誘致、新たな産業の創出による創業、起業、経営革新を促進し、地域経済の活性化をはかり活力ある藤沢づくりを進めます。

<各部門の政策案>

- ・ 広域的な産学官民連携により、ベンチャー企業の育成や中小企業のイノベーション創

出を支援し、新産業の創出を図る。

- ・ 都市間あるいは地区間を連絡する幹線道路の整備を図る。

戦略目標 18_市民生活を支える産業の活性を高めるまち

藤沢は、農業、水産業、商業、工業の4つの機能を有した、バランスのとれた産業活動の溢れるまちです。

しかし、農水産業の担い手不足、都市農業における耕作放棄地への対応、沿岸漁業における流通販路の確保などの課題が生じています。

また、少子高齢化社会や近隣都市の商業機能の集積、商業機能の郊外出店などによって、藤沢の商業環境は大変厳しい状況にあり、大型店や地域コミュニティの場など一体となった生活者の視点に立った商業機能の再構築が必要とされています。

そのためには、市内産の安全・安心な農水産物の安定供給と地産地消にむけた流通システムの再構築を図ることにより、生産者と消費者を結ぶしくみづくりを生産者、流通業者、消費者と行政が協働・連携して進めていきます。

また、地域の特性や市民ニーズを踏まえ、地域資源などを活用し、大型店と商店街が共存できる、地域に密着した活気ある商業環境の構築を進めていきます。

<各部門の政策案>

- ・ 地域の特性やニーズを踏まえ、地域資源などを活用し地域に密着した活気のある商店街づくりを進めるとともに、大型店や地域コミュニティの場など一体となった「生活街」としての商業集積を進める。
- ・ 企業立地支援策の充実などにより、市外からの企業誘致と既存企業の市内再投資を促進（市外転出防止）するとともに、市内取引の拡大や従業員の定着を図り市内中小企業の活性化及び経営の安定を図る。
- ・ 市内産の安全安心な農水産物の市内流通の仕組み作りを進めるとともに消費者への普及啓発を行い、地産地消の推進及び市内農水産業の活性化を図る。

戦略目標 19 産業や生活基盤を支える、都市構造を構築するまち

都市内外にわたる産業活動や市民の生活活動などを支え、多様な交流、連携の創出に向け都市拠点間を結び、活力を創造する交通骨格のネットワークの再構築が求められています。

また、都市拠点では、社会潮流の変化や産業、生活環境などの変化、都市機能の老朽化を迅速に捉え、都市の活力を創出する都市機能の再構築により、自律する都市の質の高い都市拠点空間の形成が必要となります。

さらに、少子高齢化社会を見据え、これまで形成されてきた市街地の地域構造を維持、継承し、有効活用する中で、成熟社会にふさわしい、質の高いまちづくりを進める必要があります。

そのためには、国、県との役割分担や、近隣都市との都市連携を通じて、広域的課題を解決するとともに、新しい公共の視点に立った産業や生活基盤を支える都市構造の再構築をめざします。

<各部門の政策案>

- ・ 用途地域の見直しや、高度地区の指定等、都市計画制度を活用することにより、少子高齢社会や環境問題に対応する都市づくりに向けて、中心市街地の活性化や産業の活性化、さらには住環境の整備を図る。
- ・ 新たな公共交通（LRT 等）の導入を図るとともに、既存バス交通や地域提案型のコミュニティバス路線の充実、さらには自転車交通の利用の促進を図り、公共交通の利用を促進し、車社会からの転換を図る。
- ・ 土地区画整理の手法を活用し、（組合など多様な施行主体による事業を推進し、）整理された安全、安心な災害に強い快適なまちを創出する。
- ・ 広域連携や都市活動を支える交通基盤を構築し、効率的な都市活動を推進する。

ふじさわ未来課題 63 地域の人材が働ける機会を創造すること

(関連未来課題 57)

戦略目標 20 地域の人材を活かした雇用機会を創出するまち

日本社会は、経済活動のグローバル化と産業構造の変化に伴い、戦後維持してきた雇用制度や社会保障制度が大きく変革しつつあります。

その結果、企業はパート、派遣などの正規従業員以外の雇用者を活用し、正規従業員の賃金制度を業績・成果主義的方向に見直しつつ、経営環境を維持しようとする傾向が生じています。

一方、藤沢市内でも産業構造の空洞化によって市民の働く場所が減少し、市民から安定した雇用や働く場所を求めるニーズが高まっています。

そのためには、国・県、近隣市町及び民間事業者等との連携により、若年層を中心とした就職困難者、女性の社会への再進出、働く意欲のある団塊世代の再雇用、高齢者の生きがいに通じる働く場の提供など、社会的・経済的自立の推進を図るため、地域の人材を活かした様々な雇用の機会を創出するまちづくりを進めます。

<各部門の政策案>

- ・ 近隣市町、国・県及び民間事業者等との連携により、就職困難者の社会的・経済的自立の推進を図る。

8 公共資産の維持管理と有効活用

公有地などの公共的な保有資産の積極的な活用とともに、公共施設の集約・移転等により生じる跡地、施設の有効活用、地域ニーズに合った資産を活用します。そのためには、公共施設・都市基盤施設の老朽化の時期を見据えて、既存施設の保全、再構築、機能更新など、社会資本の有効活用と長寿命化をめざします。

<行政政策の棚卸内容>

- ・ 公共資産の再構築と有効活用を図ること。
- ・ 近隣市町と連携して、効果的、有効的に公共資産（消防力）が活用されること
- ・ 地域における主体的な市民活動を支える。
- ・ 既存施設の機能更新による維持
- ・ 市民がいつでも安心して医療の提供を受けられること。
- ・ 地域医療支援病院として、安心して受診できる医療提供体制を整備すること。
- ・ 学校施設の有効活用について検討するとともに、老朽化した学校施設について、環境対策を含めた質的改善並びに老朽化対策等の整備計画を策定し、定期に見直し改善を図ること。

ふじさわ未来課題 67_移動や利用にあたり、誰でも利用できる道路や施設であること

戦略目標 21_誰にでも優しいユニバーサルデザインのまち

少子高齢化社会を迎え、誰もが安全・安心して移動できる都市空間の形成が、いま求められています。

子どもから高齢者まで、誰もが社会参画し、身近な地域の中でまちを散策し、様々なサービスを楽しみ、人との交流を深め、情報を発信していくために、生活拠点を中心とした移動空間の質的向上を図ります。

また、地区と地区、都市と都市との移動を円滑にしていくためのアクセス機能や公共交通機関の機能強化など、市民、ボランティア団体、NPO、企業と行政などが協働・連携して、誰にでも優しいユニバーサルデザインのまちづくりを進めます。

<各部門の政策案>

- ・ 藤沢北口駅前地区整備事業の進捗を図るとともに藤沢駅周辺地区（約145ha）を対象とした再整備構想の策定に向けた検討を進め、都市拠点としての活力創出を図る。
- ・ だれもが暮らしやすい都市空間を形成し、ユニバーサル社会の構築を進める。

ふじさわ未来課題 69_市民が利用する身近な施設が大切にされていること

（関連未来課題 70）

戦略目標 22_未来に引き継ぐ公有財産と社会資本を有効活用するまち

藤沢市には、約78万㎡の公共施設のうち約52%の約41万㎡が、今後20年以内に機能更新、再構築が必要となります。

また、都市のライフラインである公共下水道は約1,500kmで、今後20年間で整備後50年以上経過するものが約44%に達し、橋梁は189橋のうち、築30年以上経過した橋梁は111橋にも達します。

更に、藤沢市が整備した都市計画道路、一般市道をあわせて1,354kmになり、今後逐次道路機能の機能更新を進めていく必要があるなど、社会資本の老朽化、陳腐化は藤沢市の財政構造を直撃する喫緊の課題となっています。

課題解決のためには、公共資産の有効活用と公民連携の視点に立って、公共施設等の利用実態や老朽化、機能更新の時期を踏まえ、長寿命化対策や計画的な公共施設などの再構築、広域連携などを進めていく必要があります。

また、地域のコミュニティ施設については、市民・地域と行政が協働・連携し、地域の公共資産の有効活用の視点に立って、地域施設の再構築を進めていく必要があります。

<各部門の政策案>

- ・ 高齢化社会突入に伴う人口動向を見据えた計画的な施設経営とともに、災害・緊急時における市域を越えた協力体制の構築を図る。
- ・ 都市基盤施設（道路・河川・下水道施設等）の長寿命化対策の推進により、社会資本の維持、継承を図る。

ふじさわ未来課題 71_多様な連携を通じて、市民が望むサービスが提供されていること

（関連未来課題 66, 67, 68, 72）

戦略目標 23_多様な主体が広域連携するまち

多様化する市民ニーズへの対応や一自治体では解決が困難な問題に対して、近隣市町との様々な広域的連携により共通する都市課題を解決するため、広域連携によるスケールメリットと地域の特性を活かし、サービスの共同運営、防災、消防、救急、交通ネットワークや地域経済の活性化などを推進します。

また、市民、市民ボランティア、NPO、大学、企業など、市域を越えた活動主体間の協働・連携によって、情報、生活支援、研究開発、サービス向上などの機能強化を推進するとともに、行政は多様な主体による多様な都市活動の支援のしくみづくりを進めます。

<各部門の政策案>

- ・ 近隣市町との様々な広域的連携により、サービスの質的向上と多様性の推進を図る。

9 「藤沢ライフスタイル」と「湘南カルチャー」の創出

湘南の環境と文化，ブランド力などの地域の特性を活かした，魅力的な生活（「藤沢ライフスタイル」）や創造的な湘南の文化（「湘南カルチャー」）の創出をめざし，その魅力と価値を発信します。そして，市民一人ひとりが豊かな心を育み，地域と世界をつなぐ国際交流などを通じて人材を育て，文化にふれあう交流発信のまちをつくりあげることをめざします。

<行政政策の棚卸内容>

- ・ 文化にふれあう交流発信のまち
- ・ 藤沢市民まつりを通して，湘南藤沢の伝統文化の魅力を伝える。
- ・ 文化資源を「はぐくむ」，「つたえる」，「ひろげる」，「ささえる」ものであること。

ふじさわ未来課題 76 訪れる人・住む人に配慮した心遣いや工夫があること

（関連未来課題 73, 74, 80）

戦略目標 24 地域の伝統や文化を継承，多様なライフスタイルが生まれるまち

藤沢市内には、地域に根ざした歴史にもとづく祭り、風習などの伝統文化や歴史的建造物、史跡、名勝などの地域資源がいきづいています。

これらの歴史、伝統、文化についての関心と理解を深め、継承、発展させることが藤沢らしさを次世代につなげていくこととなります。

市民の多様なニーズとライフスタイルの変化を捉え、地域の歴史文化遺産の保存、継承、発展をさせていくために、市民と地域が協働・連携し、培ってきた地域文化と様々な創造活動を通じ、多様なライフスタイルが生まれるまちを創出していきます。

<各部門の政策案>

- ・ 市民が地域の歴史・伝統についての理解を深める機会を提供するため，文化財の保護及び収集資料公開活用の充実を図るとともに，地域の文化遺産の保存・継承活動の拠点となる施設を整備する。

ふじさわ未来課題 81_地域の記憶や文化が継承され、発展すること

(関連未来課題 83)

戦略目標 25_市民一人ひとりが豊かな心を育む文化に触れ合う交流発信のまち

藤沢では、江の島、湘南海岸などにおいて、大正、昭和初期に様々な文学、絵画を中心とした芸術文化が花開きました

昭和50年代には、市民力、地域力を活かした市民オペラが生まれ、地域の歴史を素材にした「竜恋譜」を上演するなど、藤沢独自の芸術文化活動が行われてきました。

また、地域では、地域固有の歴史と文化が生まれ、地域の個性ときらめきが今の時代に脈々と受け継がれています。

都市は、就業の場、学ぶ場、消費する場、居住の場としての機能が中心となっていますが、そこに市民が集い、交流し、藤沢が培ってきた文化、芸術や娯楽、スポーツなどを加え、それらが渾然一体となって新たな都市の魅力を創出し、人をひきつけ、活発な交流を図るため、クリエイティブシティ（文化芸術創造都市）の創出をめざしていきます。

<各部門の政策案>

- ・ 高いレベルの市民の芸術文化活動をより一層発展させ、藤沢市独自の市民力を活かした事業展開と施設整備を行い、芸術文化活動環境の発展を図る。

ふじさわ未来課題マトリックス

めざす方向性		(1) 地域自律型の「藤沢づくり」を育むまち	(2) 明日の藤沢を担う「藤沢の子どもたち」を育む環境	(3) 市民力・地域力による安全で安心して暮らせるまち	(4) 共に生き、共に創る地域社会の創出	(5) 豊かな地域資源の次世代への継承・発展	(6) 地球温暖化防止など未来の地球環境への投資	(7) 「藤沢づくり」を支える都市構造の再構築と地域経済の活力再生	(8) 公共資産の維持管理と有効活用	(9) 「藤沢ライフスタイル」と「湘南カルチャー」の創出
生活	(A) 市民生活の安定(安定・落ち着き・安らぎ)	1 身近な地域での暮らしやすさが実現していること	8 市民自ら、人にやさしい手をさしのべること	17 保健、医療、福祉、健康などの生活環境が整い暮らしやすいこと	24 挨拶や声かけによる市民同士のコミュニケーションがとれていること	35 まちと自然環境の調和がとれていること	46 生活の便利さと環境保全の両方が実現していること	56 身近に親しみや愛着のもてる景観があること	66 市民の財産である自然を守り、育てられていること	73 活気があり、開放的で温かいまちであること
	(B) 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)	2 市民が自慢できるまちであること 3 市民自らが藤沢を良くする活動に積極的であること	9 子どもを安心して育てられる環境があること	18 災害に対して、市民が不安なく暮らせるまちであること	25 生活環境を守るために地域でまとまりがあること	36 誰もが快適に暮らせ、居心地のいいまちであること	47 みんなが協力して、いつでもまちがきれいであること	57 すべての世代がのびのび・いきいきと活躍していること	67 移動や利用にあたり、誰でも利用できる道路や施設であること	74 いつも自然の豊かさを感じられていること
活動	(C) 持続的活動(伝える・維持する)	4 藤沢市で活用できる様々な資源を有効活用していること	10 子どもが、住んでいる地域に誇りを持ち、地域で暮らし続けていること 11 地域の歴史文化を教育活動に活用すること	20 安全・安心を高める活動が盛んであり、ボランティアの精神が高いこと	28 地域のための一人ひとりの活動が大切にされていること	39 身近にある緑が適切に保全されていること	50 市民の環境美化への意識を高める工夫がされていること	60 まちに若者が多く、活気があること	69 市民が利用する身近な施設が大切にされていること	77 藤沢の魅力がメディアで発信されていること
	(D) 創造・推進活動(発展・チャレンジ)	5 地域で協働して、暮らしやすいまちづくり活動が行われていること	12 地域協働で、教育や人材育成に熱心であること	21 市民が協力しあい、安心して住みやすいまちであること	29 いろいろな世代、いろいろな国の人たちと交流できること 30 お互いにマナーを守り、協力して地域のために活動していること	41 調和のとれた景観づくりが進められていること	51 先進的な環境対策がなされていること	62 産業の活力を高め、地域が元気になること 63 地域の人材が働ける機会を創造すること	70 様々な主体によって、身近な公共の場が維持管理されていること	78 常により良い地域にしようとする住民が活躍していること 79 市民の意識が高く、市民参加型の地域づくりが進んでいること
基盤	(E) 交流基盤(交流・つながり・連携)	6 誰でも気軽に市内の情報を発信したり、得ることができること	13 地域が子どもを見守り育てる環境であること 14 学校・家庭・地域のつながりを育む活動が活発であること	22 様々な世代が、快適で住みよいまちであること	31 社会的弱者の方が快適に過ごせるまちであること 32 人々が交流して、平和でぬくもりのある社会であること	42 市民同士が協力し合いながら暮らしていること 43 子供が大人になっても愛着の持てるまちであること	52 周辺自治体や他地域と共に環境対策を進めていること 53 市民・地域が協力して持続可能な環境ができてきていること	64 商店街と大型店舗が共存共栄し、活気あるまちになること	71 多様な連携を通じて、市民が望むサービスが提供されていること	80 市民と来訪者が交流できる機会や場があること 81 地域の記憶や文化が継承され、発展すること
	(F) 市民生活の基礎(学ぶ・育む・人材育成・仕組みづくり)	7 お互いがマナーを守り、助け合いの心で過ごせるまちであること	15 子どもたちが積極的に交流できる場が整備されていること 16 子どもたちが身近な生活の中で自然を感じていられること	23 福祉が充実し、子どもから高齢者まで守られていること	33 地域の中で学びあう雰囲気があること 34 地域で支え合い暮らせる環境であること	44 河川や海岸が市民に開かれていること 45 地域の未来の担い手が育成されていること	54 地球環境に優しい手段で移動できること 55 環境美化活動を支える仕組みがあること	65 市内の交通・物流がスムーズに行われること	72 いろいろな市民の学びの場が充実していること	82 藤沢ならではの取り組みが実践されていること 83 子どもから大人まで、文化に触れる環境が整っていること

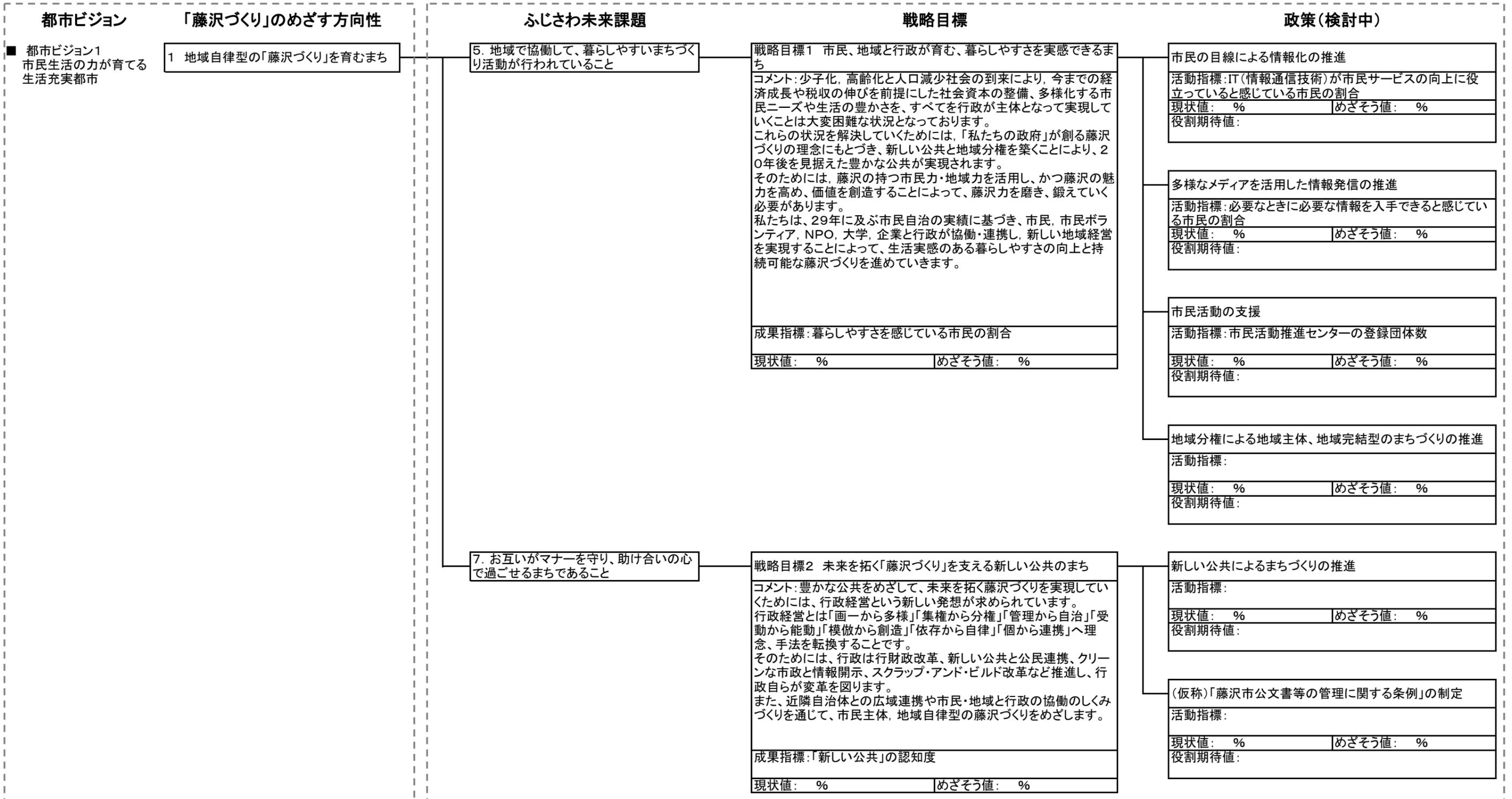
①協働型の課題解決で価値向上へ

②強みや魅力の維持・向上を

③より効率的に価値の維持を

④熟慮と根拠ある未来戦略を

重点・ふじさわ未来課



都市ビジョン

「藤沢づくり」のめざす方向性

- 都市ビジョン1
市民生活の力が育てる
生活充実都市

2 明日の藤沢を担う「藤沢のこどもたち」を育む環境

ふじさわ未来課題

8. 市民自ら、人にやさしい手をさしのべる
こと

戦略目標

戦略目標3 子どもを安心して産み育てられるまち

コメント: 少子化の進展は、労働人口の減少や経済の停滞等を生じ、地域構造のバランスを崩し、藤沢全体に様々な影響を及ぼします。
明日の藤沢づくりの担い手は、子どもたちです。
子どもを安心して産み育てられるまちにしていくためには、子育ての不安を解消し、安心して子どもを産み、育てられる生活環境や多様な教育ニーズへの対応が求められています。
そのためには、市民・地域と行政が協働・連携して、明日の藤沢を担う子どもたちが元気に育つ環境、子育て支援のしくみ、教育環境などを形成することによって、子や孫やこれから生まれてくる子どもたちのための藤沢づくりを進めます。

成果指標: 安心して出産・子育てができると感じる割合

現状値: % めざそう値: %

14. 学校・家庭・地域のつながりを育む活動が活発であること

戦略目標4 身近な場所で地域ぐるみの子育てができるまち

コメント: 核家族化の進展、一人っ子世帯の増加、働きながら子育てをする家庭の増大など、子育てをする家庭環境は大きく変貌しています。
また、高齢化社会の到来によって、地域にはたくさんの子育ての経験豊かな市民も多くいます。
明日を担う子どもたちは、藤沢の財産です。
このような地域社会の状況変化を踏まえ、子育ては家庭はもとより、地域や学校、多くの市民や地域を支える自治会・町内会、ボランティア、NPO、教育機関、企業などと行政が連携・協働して、子どもたちを地域ぐるみで育て、教え、見守る子育て支援のしくみづくりが求められています。
また、青少年育成のためには、市民力・地域力・教育力を活かして、青少年の健全育成のための環境づくりを進めていきます。

成果指標: 地域が子育てに積極的に関わっていると感じている市民の割合

現状値: % めざそう値: %

政策(検討中)

親子の健康の確保と増進
活動指標: 安心して出産・子育てができると感じる割合
現状値: % めざそう値: %
役割期待値:
援助が必要な児童への取り組みの推進
活動指標: 相談しやすい環境が整っていると感じている市民の割合
現状値: % めざそう値: %
役割期待値:
すべての子育て家庭への支援の充実
活動指標: 保育所定員及び特別保育等実施園数
現状値: % めざそう値: %
役割期待値:
生きる力を育む学校教育の推進
活動指標: 保護者等が、学校教育が充実していると評価している割合
現状値: % めざそう値: %
役割期待値:
誰でも楽しく学べる学校教育環境の整備
活動指標: 小・中・特別支援学校の整備について満足と感じている市民の割合
現状値: % めざそう値: %
役割期待値:
青少年の豊かな心を育む環境の整備
活動指標: 青少年の育成の場や機会が充実していると感じている市民の割合
現状値: % めざそう値: %
役割期待値:

都市ビジョン

「藤沢づくり」のめざす方向性

■ 都市ビジョン1
市民生活の力が育てる
生活充実都市

3 地域力・市民力による安全で安心して暮らせるまち

ふじさわ未来課題

18. 災害に対して、市民が不安なく暮らせるまちであること

戦略目標

戦略目標5 災害や犯罪に対して不安なく暮らせるまち

コメント:コミュニティを維持発展させ、市民が安全・安心に暮らせる藤沢づくりは重要な課題です。
地球環境や自然環境の変化によって、地震、津波、風水害などの災害や都市構造の変化、高齢化社会の到来などにより、様々な災害の要因が生まれています。
また、核家族化、高齢者世帯や共働き世帯の増加、都市環境・都市活動の変化などが要因となって、様々な犯罪も発生しています。
更に、自動車社会の進展により、多様な交通事故や交通問題が惹起しています。
身近なコミュニティにおいても、人と車、自転車が共存する安全・安心な環境が求められています。
そのためには、市民・地域と行政が協働・連携して築き上げてきた防災力を活かして、災害に対しての備えや被災したときの体制、緊急支援活動の充実によって、生活の不安を解消し、日常生活においても安全・安心な体制づくりをめざします。
加えて藤沢の持つ消防力、救急力を活かし、かつ近隣の市町との消防広域連携によって火災予防、火災対応を充実させ、機能強化を図ります。
また、事故や犯罪についても、市民・地域と行政が協働・連携して、築き上げてきた安全・安心のしきみを活かして、更なる地域ぐるみでの安全・安心な環境づくりをめざします

成果指標:災害や犯罪に対して不安をいただいている市民の割合

現状値: % | めざそう値: %

政策(検討中)

地域防災力の強化を図る
活動指標:自主防災組織の訓練実施率
現状値: % めざそう値: %
役割期待値:
安全で安心できる消費生活の推進
活動指標:消費生活に不安を感じていない市民の割合
現状値: % めざそう値: %
役割期待値:
防犯対策の強化
活動指標:市内の刑法犯認知件数
現状値: % めざそう値: %
役割期待値:
災害に強いまちづくりの推進
活動指標:耐震性を有する住宅の割合
現状値: % めざそう値: %
役割期待値:
安全・安心な都市基盤・都市環境づくりの推進
活動指標:浸水対策実施地区数
現状値: % めざそう値: %
役割期待値:
消防防災体制の充実強化
活動指標:防災・消防に対して安心感を感じている市民の割合
現状値: % めざそう値: %
役割期待値:
市民の自主的災害活動の強化
活動指標:市民が自主防災に備える意識の必要性を感じている割合
現状値: % めざそう値: %
役割期待値:

都市ビジョン

「藤沢づくり」のめざす方向性

- 都市ビジョン1
市民生活の力が育てる
生活充実都市

3 地域力・市民力による安全で安心して暮らせるまち

ふじさわ未来課題

23. 福祉が充実し、子どもから高齢者まで守られていること

戦略目標

戦略目標6 保健・医療・福祉・健康などの生活環境が整ったまち

コメント:すべての人が生涯を通じ、いつまでも住み慣れた地域で、からだも心も元気で、いきいきと暮らし続けることは、私たちの願いです。
この願いを実現するため、市民・地域と行政が協働し、病気の予防や心も健やかであるための健康づくりを進める必要があります。
市民は、生涯を通じた健康を自らつくり、家庭ではぐくむとともに、地域では、人と人とのつながりや地域の活力をいかして、互いに健康を支え合うことが大切です。
行政は、市民・地域の健康を支えるために、保健・医療(介護)・福祉・健康・食育・スポーツ・安全・安心な環境づくりを推進していきます。
また、少子高齢化社会の到来を踏まえ、皆が明るく豊かで生きがいを持って、生き生きとした生活を送ることができるよう、生活者の実感を大切にしながら、市民・地域と行政が協働・連携して、保健・医療(介護)・福祉・健康などの新たなセーフティネットの構築も進めていく必要があります。

成果指標:保健・医療・福祉・健康が充実していると感じている市民の割合
現状値: % めざそう値: %

政策(検討中)

- 障がいのある人への支援の充実
活動指標:障がいのある人に適切な支援がなされていると感じている市民の割合
現状値: % めざそう値: %
役割期待値:
- ゆとりある高齢期を明るく心豊かに暮らせるまちの創造
活動指標:高齢者保健福祉計画に基づく老人福祉施設整備目標
現状値: % めざそう値: %
役割期待値:
- 生涯にわたる健康づくりの推進と健康危機管理体制の充実
活動指標:健康などの生活環境が整い暮らしやすいと思う人の割合
現状値: % めざそう値: %
役割期待値:
- 医療体制の充実、整備の推進
活動指標:産科分娩件数
現状値: % めざそう値: %
役割期待値:
- 安全・安心な住宅セーフティネットの充実
活動指標:社会的弱者が快適な環境で過ごしていると感じている割合(指定管理者アンケート結果より)
現状値: % めざそう値: %
役割期待値:
- 湘南藤沢の地域特性を活かした生涯スポーツ活動の推進
活動指標:気軽に利用できるスポーツ施設が充実していると感じている市民の割合
現状値: % めざそう値: %
役割期待値:

都市ビジョン

- 都市ビジョン2
地域から地球に拡がる
環境行動都市

「藤沢づくり」のめざす方向性

4 共に生き、共に創る地域社会の創出

ふじさわ未来課題

24. 挨拶や声かけによる市民同士のコミュニケーションがとれていること

戦略目標

戦略目標7 一人ひとりの個性を尊重し認め合う、心の通うまち
 コメント:国際化や価値観の多様化、ひとり暮らし世帯の増加と核家族化の進展の中で、市民一人ひとりの個性と人権が尊重され、認め合うことで、心豊かな社会や生活環境の価値向上が求められています。
 家庭内暴力やいじめ、差別、セクシャルハラスメントなどがなく、ワークライフバランスや男女共同参画社会などの実現を図るためには、性別、世代、格差、国籍、ハンディキャップなどを超えて、互いに尊重し、共に生き、共に創る地域社会を創出していく必要があります。
 そのためには、市民・地域と行政が協働・連携して、一人ひとりの個性を尊重し、人権を認め合い、多文化が共生し、男女共同参画をめざした藤沢づくりを進めます。
 成果指標:個性が尊重されていると感じている市民の割合
 現状値: % めざそう値: %

政策(検討中)

人権社会の推進
 活動指標:性別、年齢、社会的地位、所得、国籍、ハンディキャップなどを意識させない社会であると感じている市民の割合
 現状値: % めざそう値: %
 役割期待値:

32. 人々が交流して、平和でぬくもりのある社会であること

戦略目標8 人々が交流して、平和でぬくもりのあるまち
 コメント: 平和な社会は、藤沢市民の願いです。
 藤沢市は、「藤沢市核兵器廃絶平和都市宣言」や「藤沢市平和基金条例」「藤沢市核兵器廃絶平和推進の基本に関する条例」を制定し、市民・地域と行政が協働・連携して、恒久平和をめざして、様々な平和運動を推進してきました。
 また、航空機騒音などに対する諸問題解決に向けて、様々な活動も進めてきました。
 これまで蓄積してきた平和などに対する思いをさらに深化させていく必要があります。
 一方、藤沢は様々な海外都市との交流をはじめ、都市間交流も活発に行われてきました。
 藤沢に生きた人々の歴史とそこから生まれた文化を探求し、継承するとともに、多文化が織りなす交流を通じて情報を共有し、地域ぐるみでの交流活動をさらに発展させ、新しい文化交流へとつなげていくことが求められています。
 市民・地域と行政が協働・連携して、都市間交流を活性化させ、海外都市、外国籍市民との交流によって、多文化が共生し、平和で穏やかな地域社会を創り出す藤沢づくりを進めます。
 成果指標:生活の中で平和な社会を実感している市民の割合
 現状値: % めざそう値: %

多様な担い手との協働による国際交流の推進
 活動指標:外国籍市民との交流を身近に感じている市民の割合
 現状値: % めざそう値: %
 役割期待値:

34. 地域で支え合い暮らせる環境であること

戦略目標9 地域で支え合う共生するまち
 コメント:地域分権を通じて、地域で支えあう共生するまちを実現していくためには、藤沢の市民自治の歴史と蓄積を活かし、市民・地域が協働・連携して、地域コミュニティを豊かにしていく市民主体のまちづくりを進めていくことが重要です。
 そのためには、市民一人ひとりの支えあい、自治会・町内会など身近な地域での支えあい、ボランティア団体、NPO、大学、企業などによる社会貢献活動が相互に連携・補完する、個性豊かで地域が生き生きとした、生涯を通じて一人ひとりが生きがいを持って暮らすことができる藤沢づくりを進めます。
 また、行政は、地域で支えあい共生するまちを実現するために、地域に根ざした市民ボランティアやNPOなどを育成し活動を支援するための様々なしくみを構築します。
 成果指標:地域に支えられて暮らしていると実感している市民の割合
 現状値: % めざそう値: %

地域で支えあうためのネットワークづくりの推進
 活動指標:ボランティアセンターへの登録者数
 現状値: % めざそう値: %
 役割期待値:

多様な主体による生涯学習の推進とネットワークの構築
 活動指標:気軽に利用できる学習施設の充実について満足と感じている市民の割合
 現状値: % めざそう値: %
 役割期待値:

都市ビジョン

- 都市ビジョン2
地域から地球に拡がる
環境行動都市

「藤沢づくり」のめざす方向性

5 豊かな地域資源の次世代への継承・発展

ふじさわ未来課題

37. 市民、地域、行政が協力し、快適な生活が実現していること

戦略目標

戦略目標10 豊かな自然環境と地域資源を守り発展させ、次世代に継承するまち
 コメント： 藤沢には、湘南海岸や引地川、境川の水辺環境、川名緑地をはじめとした里山がいまに残る三大緑地などの自然環境、北部を中心とした自然豊かな田園環境、また地域の歴史や文化に育まれた次世代に継承する大切な地域資源があります。
 これらの地域資源は、長い年月を経て先人たちが創り、育て、守ってきた、貴重な市民共有の財産です。
 これらの地域資源を保全、再生、発展、継承することにより、湘南の自然環境と歴史文化がいきづく、将来にわたって住み続けたい、藤沢に住みたい、藤沢で活動したいと感じられる藤沢づくりを進めます。
 成果指標：自然環境が豊かだと感じている市民の割合
 現状値： % めざそう値： %

戦略目標11 愛着と誇りの持てる景観の保全と創造するまち
 コメント： 藤沢の自然、歴史、文化の蓄積と市民との協働によるまちづくりの進展、都市魅力の発信によって、湘南藤沢のイメージが培われてきました。
 その反面、地域の個性や愛着、アイデンティティが見えにくい側面も生まれています。
 愛着と誇りの持てる景観の保全と創造のまちを実現していくためには、都市全体を印象付ける自然環境や都市環境を保全、形成していくとともに、ブランド力により磨きをかけ、かつ身近な地域での愛着と誇りを感じる地域景観の保全、形成を進めていく必要があります。
 藤沢で培ってきた景観づくりや自然環境の保全、形成のしくみや蓄積をさらに深化させ、様々な人々を湘南藤沢に惹きつけていく魅力を高めるために、市民・地域と行政が協働・連携して、景観の保全と創造による藤沢づくりを進めます。
 成果指標：まちの景観が好きだと思っている市民の割合
 現状値： % めざそう値： %

45. 地域の未来の担い手が育成されていること

戦略目標12 地域の担い手が育つまち
 コメント： 藤沢には、市民力、地域力が満ち溢れています。
 この藤沢の大切な「力」を活かして、次世代の藤沢づくりの担い手を生み、育て、引き継いでいくひとづくりが、いま求められています。
 未来の担い手が育つまちを実現していくためには、様々な人生を経験してきた市民の経験力、地域の文化を継承、発展させてきた地域の継承力、ボランティア、NPO活動によって培われてきた地域貢献力、大学、企業などが地域と協働する社会貢献力、これらを支える行政力などが必要です。
 このような「力」が協働・連携し、子どもたちやすべての世代が、未来のまちの担い手として活躍できる活動を推進します。
 成果指標：藤沢の未来を担っていく担い手が着実に育っていると感じている市民の割合
 現状値： % めざそう値： %

政策（検討中）

谷戸や緑地など自然環境の保全
 活動指標：緑地の保全及び動植物にとって良好な生息・生育環境が保全されていると感じている市民の割合
 現状値： % めざそう値： %
 役割期待値：

地域の特性を生かした市民主体の景観まちづくりの推進
 活動指標：市民満足度調査による平均値を上回る地区の割合
 現状値： % めざそう値： %
 役割期待値：

次世代の「藤沢づくり」を担う担い手の育成
 活動指標：地域活動に参加する市民の数
 現状値： % めざそう値： %
 役割期待値：

都市ビジョン

- 都市ビジョン3
さらなる可能性を追求する創造発信都市

「藤沢づくり」のめざす方向性

7 「藤沢「づくり」を支える都市構造の再構築と地域経済の活力再生

ふじさわ未来課題

61. 観光により地域が元気になること

戦略目標16 多様な地域資源を活かした観光立市のまち

コメント： 藤沢は江戸の昔から「江ノ島詣」を通じて、江戸庶民の観光地として栄え、戦前戦後を通じて、歴史と文化の江の島、海洋レクリエーション拠点の湘南海岸を中心に首都圏の身近な観光拠点として、年間1,000万人を超える観光客が訪れる観光地として発展してきました。

近年の国民の観光・レジャーに対する多様なニーズの変化や、東南アジアを中心とした外国人観光客の増加などを踏まえ、観光立市としての新たな観光戦略が求められています。

そのためには、藤沢の自然、歴史、文化と今まで培われてきた交流文化、湘南ブランドを活用し、市民が身近なまちの地域資源や素晴らしさに触れ、余暇時間の活用や生涯学習などを通じて、市内観光の魅力を再発掘、再発見することが必要です。

また、湘南ブランドの魅力を高め、多様な地域資源と市民のおもてなし文化を通じ、南北縦断観光機能の強化によって、海外、国内からの観光誘客を図り、あわせて誘客観光産業を育成し、多様な地域資源を活かした観光立市のまちづくりを進めます。

成果指標：観光によって地域の活性化が進んでいると感じている市民の割合

現状値： % めざそう値： %

新たな観光資源の開発と外国人誘客による、地域活性化の推進

活動指標：1年間の観光客数(海水浴客数を除く)の増加割合

現状値： % めざそう値： %

役割期待値：

62. 産業の活力を高め、地域が元気になること

戦略目標17 新しい産業の興る活力あるまち

コメント： 藤沢は、戦前戦後を通じて東海道沿線や北部地域を中心に、製造業を中心とした産業が立地し、日本でも有数の工業都市として発展してきました。

しかし、経済活動のグローバル化、産業構造の変化は、藤沢の製造業を中心とした産業構造にも大きな変化を与え、産業の空洞化による製造品出荷額の減少、雇用の減少による市民の働く場の喪失が生じています。

この問題を解決するためには、藤沢の持つ都市インフラなどの強みと、大学力、企業力、市民力を活かし、また今まで培ってきた多彩な人材、知財資源を活用して、ベンチャー企業、ソーシャルビジネスの育成や研究開発機関の誘致、新たな産業の創出による創業、起業、経営革新を促進し、地域経済の活性化をはかり活力ある藤沢づくりを進めます。

成果指標：市内企業が活発だと感じている市民の割合

現状値： % めざそう値： %

ベンチャー企業や中小企業の新事業進出による新産業の創出の推進

活動指標：ベンチャー企業の事業化数

現状値： % めざそう値： %

役割期待値：

快適な市民生活をもたらす道路交通ネットワークの構築

活動指標：広域道路網の整備率

現状値： % めざそう値： %

役割期待値：

戦略目標18 市民生活を支える産業の活力を高めるまち

コメント： 藤沢は、農業、水産業、商業、工業の4つの機能を有した、バランスのとれた産業活動の溢れるまちです。

しかし、農水産業の担い手不足、都市農業における耕作放棄地への対応、沿岸漁業における流通販路の確保などの課題が生じています。

また、少子高齢化社会や近隣都市の商業機能の集積、商業機能の郊外出店などによって、藤沢の商業環境は大変厳しい状況にあり、大型店や地域コミュニティの場など一体となった生活者の視点に立った商業機能の再構築が必要とされています。

そのためには、市内産の安全・安心な農水産物の安定供給と地産地消にむけた流通システムの再構築を図ることにより、生産者と消費者を結ぶしくみづくりを生産者、流通業者、消費者と行政が協働・連携して進めていきます。

また、地域の特性や市民ニーズを踏まえ、地域資源などを活用し、大型店と商店街が共存できる、地域に密着した活気ある商業環境の構築を進めていきます。

成果指標：市内の商業・工業・農水産業に元気があると感じている市民の割合

現状値： % めざそう値： %

コミュニティの核として地域に密着した「商店街」づくりの推進

活動指標：日常生活において身近な生活街としての商店街を利用する人の割合

現状値： % めざそう値： %

役割期待値：

研究開発型の産業集積と中小企業の活性化の推進

活動指標：研究開発型企業の市内企業に占める割合

現状値： % めざそう値： %

役割期待値：

地産地消の推進による市内農水産業の活性化

活動指標：安全・安心な市内産の農水産物が身近で手に入ると感じる人の割合

現状値： % めざそう値： %

役割期待値：

都市ビジョン

- 都市ビジョン3
さらなる可能性を追求する創造発信都市

「藤沢づくり」のめざす方向性

7 「藤沢「づくり」を支える都市構造の再構築と地域経済の活力再生

ふじさわ未来課題

63. 地域の人材が働ける機会を創造すること

戦略目標

戦略目標19 産業や生活基盤を支える、都市構造を構築するまち

コメント: 都市内外にわたる産業活動や市民の生活活動などを支え、多様な交流、連携の創出に向け都市拠点間を結び、活力を創造する交通骨格のネットワークの再構築が求められています。
また、都市拠点では、社会潮流の変化や産業、生活環境などの変化、都市機能の老朽化を迅速に捉え、都市の活力を創出する都市機能の再構築により、自律する都市の質の高い都市拠点空間の形成が必要となります。
さらに、少子高齢化社会を見据え、これまで形成されてきた市街地の地域構造を維持、継承し、有効活用する中で、成熟社会にふさわしい、質の高いまちづくりを進める必要があります。
そのためには、国、県との役割分担や、近隣都市との都市連携を通じて、広域的課題を解決するとともに、新しい公共の視点に立った産業や生活基盤を支える都市構造の再構築をめざします。

成果指標: 交通などの都市基盤が充実していると感じている市民の割合
現状値: % めざそう値: %

戦略目標20 地域の人材を活かした雇用機会を創出するまち

コメント: 日本社会は、経済活動のグローバル化と産業構造の変化に伴い、戦後維持してきた雇用制度や社会保障制度が大きく変革しつつあります。
その結果、企業はパート、派遣などの正規従業員以外の雇用者を活用し、正規従業員の賃金制度を業績・成果主義的方向に見直しつつ、経営環境を維持しようとする傾向が生じています。
一方、藤沢市内でも産業構造の空洞化によって市民の働く場所が減少し、市民から安定した雇用や働く場所を求めるニーズが高まっています。
そのためには、国・県、近隣市町及び民間事業者等との連携により、若年層を中心とした就職困難者、女性の社会への再進出、働く意欲のある団塊世代の再雇用、高齢者の生きがいに通じる働く場の提供など、社会的・経済的自立の推進を図るため、地域の人材を活かした様々な雇用の機会を創出するまちづくりを進めます。
成果指標: 市内で働く機会が得ることができると考えている市民の割合
現状値: % めざそう値: %

政策(検討中)

都市計画制度による住環境整備や産業の活性化	
活動指標: 産業と住環境のバランスが良いと感じている市民の割合	
現状値: %	めざそう値: %
役割期待値:	

交通ネットワークの充実による交通体系の充実	
活動指標: 交通ネットワークの整備により利便性を感じている市民の割合	
現状値: %	めざそう値: %
役割期待値:	

きちんと整理された安全で快適なまちづくりの推進	
活動指標: 土地区画整理事業による整備面積の拡大	
現状値: %	めざそう値: %
役割期待値:	

都市形成に資する交通体系の構築	
活動指標: 都市計画道路の整備率	
現状値: %	めざそう値: %
役割期待値:	

若年者を中心とした就労支援事業の推進	
活動指標: 「Let'sしごと塾」カウンセリング利用者の進路先が決定する割合	
現状値: %	めざそう値: %
役割期待値:	

都市ビジョン

- 都市ビジョン3
さらなる可能性を追求する創造発信都市

「藤沢づくり」のめざす方向性

8 公共資産の維持管理と有効活用

ふじさわ未来課題

67. 移動や利用にあたり、誰でも利用できる道路や施設であること

戦略目標21 誰にも優しいユニバーサルデザインのまち

コメント: 少子高齢化社会を迎え、誰もが安全・安心して移動できる都市空間の形成が、いま求められています。
子どもから高齢者まで、誰もが社会参画し、身近な地域の中でまちを散策し、様々なサービスを楽しみ、人との交流を深め、情報を発信していくために、生活拠点を中心とした移動空間の質的向上を図ります。
また、地区と地区、都市と都市との移動を円滑にしていくためのアクセス機能や公共交通機関の機能強化など、市民、ボランティア団体、NPO、企業と行政などが協働・連携して、誰にでも優しいユニバーサルデザインのまちづくりを進めます。

成果指標: 移動や利用にストレスを感じていない市民の割合

現状値: % | めざそう値: %

69. 市民が利用する身近な施設が大切にされていること

戦略目標22 未来に引き継ぐ公有財産と社会資本を有効活用するまち

コメント: 藤沢市には、約78万㎡の公共施設のうち約52%の約41万㎡が、今後20年以内に機能更新、再構築が必要となります。
また、都市のライフラインである公共下水道は約1,500kmで、今後20年間で整備後50年以上経過するものが約44%に達し、橋梁は189橋のうち、築30年以上経過した橋梁は111橋にも達します。
更に、藤沢市が整備した都市計画道路、一般市道はあわせて1,354kmになり、今後逐次道路機能の機能更新を進めていく必要があるなど、社会資本の老朽化、陳腐化は藤沢市の財政構造を直撃する喫緊の課題となっています。
課題解決のためには、公共資産の有効活用と公民連携の視点に立って、公共施設等の利用実態や老朽化、機能更新の時期を踏まえ、長寿命化対策や計画的な公共施設などの再構築、広域連携などを進めていく必要があります。
また、地域のコミュニティ施設については、市民・地域と行政が協働・連携し、地域の公共資産の有効活用の視点に立って、地域施設の再構築を進めていく必要があります。

成果指標: 将来世代に社会資本が適正な状態で引き継げていると認識している市民の割合

現状値: % | めざそう値: %

71. 多様な連携を通じて、市民が望むサービスが提供されていること。

戦略目標23 多様な主体が広域連携するまち

多様化する市民ニーズへの対応や一自治体では解決が困難な問題に対して、近隣市町との様々な広域的連携により共通する都市課題を解決するため、広域連携によるスケールメリットと地域の特性を活かし、サービスの共同運営、防災、消防、救急、交通ネットワークや地域経済の活性化などを推進します。
また、市民、市民ボランティア、NPO、大学、企業など、市域を越えた活動主体間の協働・連携によって、情報、生活支援、研究開発、サービス向上などの機能強化を推進するとともに、行政は多様な主体による多様な都市活動の支援のしくみづくりを進めます。

成果指標: 行政だけでなく多様な主体の連携が進んでいると感じている市民の割合

現状値: % | めざそう値: %

戦略目標

政策(検討中)

商業、文化、公共機能などが集積した災害に強い都市拠点の再整備推進

活動指標: 主要駅周辺の交通の利便さや活気を感じている市民の割合

現状値: % | めざそう値: %

役割期待値:

人と環境にやさしい都市空間の構築

活動指標: 公共施設や道路等街のバリアフリー化がされていると感じる市民の割合

現状値: % | めざそう値: %

役割期待値:

衛生関連施設の老朽化対策の推進

活動指標: 衛生関連施設に不便を感じていない市民の割合

現状値: % | めざそう値: %

役割期待値:

都市基盤施設の長寿命化対策の推進

活動指標: 市民生活に欠かせない社会資本が適正に維持管理されていると感じている市民の割合

現状値: % | めざそう値: %

役割期待値:

湘南広域都市行政協議会などにおける広域連携の推進

活動指標: 行政が広域的に連携することにより、質のよいサービスが提供されていると感じている市民の割合

現状値: % | めざそう値: %

役割期待値:

市域全体の重点課題として取り扱うべき「ふじさわ未来課題」

**市域全体の重点課題として取り扱うべき「ふじさわ未来課題」報告書式
(記載例)**

未来課題番号	7
未来課題	
地域課題として検討されている事業	<p>(地域から課題として挙げられている事業)</p> <p>例) ○○市民センター改築事業 農振農用地の土地利用や主要路線の沿道土地利用について 市街化区域の線引き見直しについて 主要路線の整備事業(茅ヶ崎丸子線拡幅、歩道設置事業)</p>
原因や背景	<p>(地域としてこれまで課題とされてきた原因や背景)</p> <p>例) ○○市民センターは、昭和××年の建設以来△△年が経過し、老朽化が著しく、利用する市民からも空調、トイレなどの設備や会議室、談話室、体育室の使い勝手の悪さ、駐車場の台数不足による不便さなどが指摘されている。施設白書でも利用率は高く、改築の必要が生じている。</p>
懸案事項	<p>(事業実施にあたっての懸案事項)</p> <p>例) ・現地建て替えの場合、近隣センターまでのアクセスを考えると仮設庁舎、代替用地の確保が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般財源での建て替え費用全額負担が困難なため、公民連携による有効利用案と財源確保の検討が必要 ・近隣公共施設との共同利用の検討(消防出張所、市民の家、地域子供の家等)
市域全体で検討すべき理由	<p>(全体課題としてどう整理するか)</p> <p>例) ・庁舎整備については、年次計画に沿って実施されるべきであり、全庁課題として取り扱うべき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域課題で実施することには、財源や公民連携の点から困難性がある ・現地建て替えが困難な場合、移設先の決定は地域単独ではできない

**市域全体の重点課題として取り扱うべき「ふじさわ未来課題」報告書式
(片瀬)**

未来課題番号	7
未来課題	お互いがマナーを守り、助け合いの心で過ごせるまちであること
地域課題として検討されている事業	(地域から課題として挙げられている事業) ボランティアポイント制度 (ボランティアの担い手を広げ、継続してもらう)
原因や背景	(地域としてこれまで課題とされてきた原因や背景) 地域団体が実施する各種事業は、地域の方のボランティアにより支えられており、その担い手が限られているため、一部の人に加重の負担がかかっている現状がある。特に、片瀬地区では、今年1月に地区ボランティアセンターを開設し、高齢者の居場所や子育て広場に一日6時間もボランティアとして活動しているような現状があり、子どもの登下校への見守りボランティアなども含めて、一部の市民に偏りなかなか大きな広がりとなっていない。
懸案事項	(事業実施にあたっての懸案事項) <ul style="list-style-type: none"> ・ 65才以上の高齢者が、特定の福祉施設でボランティアをすることで、介護保険料の削減等をはかる目的のポイント制度では、地域のボランティアの輪が広がらない。 ・ 福祉事業に限定する制度では、様々な地域活動者に不公平となる。 ・ 市内の公共施設(体育館、プール、公民館、市民会館)をポイント利用で無料で使用できるなど検討
市域全体で検討すべき理由	(全体課題としてどう整理するか) <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、保健医療福祉課で検討されているボランティアポイント制度を、活動事業の範囲を広げ、ポイントの使い道も現金だけでなく使い道を広げるなど見直せば、一部の市民に偏りなかなか大きな広がりとなっていない地域でのボランティア活動を活性化するきっかけとなると考える。

**市域全体の重点課題として取り扱うべき「ふじさわ未来課題」報告書式
(片瀬)**

未来課題番号	18
未来課題	災害に対して、市民が不安なく暮らせるまちであること
地域課題として検討されている事業	<p>(地域から課題として挙げられている事業)</p> <p>①崖地対策：地震や大雨による崖崩れ等危険箇所の改修</p> <p>②プレジャーボート対策：津波発生時に境川沿いの被害拡大が懸念される不法係留船舶の対策</p> <p>③ 浸水対策：大雨による地区内の浸水対策</p> <p>④ 狭あい道路対策：避難路、火災の延焼防止、生活道路の環境整備の面から道路の拡幅</p> <p>⑤ ブロック塀対策：災害時に転倒しそうなブロック塀の改修促進</p>
原因や背景	<p>(地域としてこれまで課題とされてきた原因や背景)</p> <p>① 自然が豊である反面、急傾斜地を多く抱える片瀬地区として早期に危険箇所の改修を必要としている</p> <p>② 懸案であったプレジャーボート対策として県が平成 25 年までに撤去を前提に係留許可をしている。1 日でも早い危険な船舶の撤去が望まれている。</p> <p>③ 大雨により白百合高等学校脇の水路が溢水し、下流部家屋や店舗に浸水被害が発生するため早期の改善が望まれている。</p> <p>④ 緊急車両の通行や災害時の避難路確保などの観点から狭あい道路の拡幅が望まれる。</p> <p>⑤ 地震等の災害時に倒壊するブロック塀による怪我の防止、通行阻害の防止などの観点から危険ブロック塀の改修が望まれる。</p>
懸案事項	<p>(事業実施にあたっての懸案事項)</p> <p>① 県の事業として実施しているため採択は県の判断であり、市や地域で計画できない。</p> <p>② 県の事業であり約束の誠実な実効を見守る状況。</p> <p>③ 市内に浸水対策が必要な箇所はいくつかあり、財源の問題もありその順位付けにより実施時期が決まる。(遅くなる)</p> <p>④ ⑤ 拡幅や改修すべき対象が個人所有であり、その費用は原則所有者負担となることなど促進の阻害になっている。</p>
市域全体で検討すべき理由	<p>(全体課題としてどう整理するか)</p> <p>① ②急傾斜地対策、不法係留対策は県の事業である。 県への対応は全庁課題として取り扱うべきである。</p> <p>③ 浸水対策は、年次計画に沿って実施されるべきであり、全庁課題として取り扱うべき。</p> <p>④⑤ 全庁的課題であり、助成等の支援をするにあたり公平・公正を期すためにも地域単独ではなく全庁課題としても取り扱うべき。</p>

**市域全体の重点課題として取り扱うべき「ふじさわ未来課題」報告書式
(片瀬)**

未来課題番号	40
未来課題	地域にある様々な地域資源が活かされていること
地域課題として検討されている事業	<p>(地域から課題として挙げられている事業)</p> <p>①史跡の整備・江の島道の整備</p> <p>旧藤沢宿、遊行寺から江の島への旧江の島みちの道標を中心に多数の史跡を整備し、沿線の壁面や塀の緑化を図り、鎌倉に負けない歴史散策の場とする。もって地域の活性化を図る。</p>
原因や背景	<p>(地域としてこれまで課題とされてきた原因や背景)</p> <p>歴史・伝統・祭などの活性化の要望は多数あり、片瀬江ノ島固有の歴史・文化・伝統行事を継承・発展させることが地域活性化の1つのカギである。</p>
懸案事項	<p>(事業実施にあたっての懸案事項)</p> <p>沿線住民の認知がとれていない。</p> <p>通学路と重なっている部分が多いため交通安全対策を合わせて実施することを考慮する。</p>
市域全体で検討すべき理由	<p>(全体課題としてどう整理するか)</p> <p>旧江の島みちは2地区にわたるため全庁課題としても扱うべき。</p>

**市域全体の重点課題として取り扱うべき「ふじさわ未来課題」報告書式
(片瀬)**

未来課題番号	49
未来課題	人々の環境への意識が高く、快適なまちであること
地域課題として検討されている事業	(地域から課題として挙げられている事業) ① レジ袋削減協議会の全市・県下への普及 ② 海岸清掃(クリーンキャンペーン)の実施
原因や背景	(地域としてこれまで課題とされてきた原因や背景) ① 温暖化防止の一環としてレジ袋削減の取組が神奈川県宣言に基づき片瀬・鵜沼をモデル地区に協議会が設置された。全市・県下に発展推進することが重要である。 ② 地域の資産である海岸を地域主体で清掃作業を実施している。
懸案事項	(事業実施にあたっての懸案事項) ①
市域全体で検討すべき理由	(全体課題としてどう整理するか) ①地球温暖化防止対策活動は全庁課題としても扱うべき。 ②市の財産として対応も必要であり、全庁課題としても取り扱うべき。

市域全体の重点課題として取り扱うべき「ふじさわ未来課題」報告書式
(片瀬)

未来課題番号	67
未来課題	移動や利用にあたり、誰でも利用できる道路や施設であること
地域課題として検討されている事業	<p>(地域から課題として挙げられている事業)</p> <p>① モノレール湘南江の島駅にエレベータの設置 バリアフリー推進の一環として駅舎が5階のモノレール湘南江の島行きにエレベータの設置を推進する。</p> <p>② コミュニティーバスの導入 高齢化が進んでいる片瀬山などにコミュニティーバスを導入する。</p> <p>③ 道路の渋滞緩和策の実施 藤沢駅周辺や夏の海岸周辺の渋滞の緩和対策の実施を進める。</p>
原因や背景	<p>(地域としてこれまで課題とされてきた原因や背景)</p> <p>① 地上5階に乗降ホームがありエスカレータは一部にしか設置されていない。利用者の利便性向上、バリアフリーの推進を図る。</p> <p>② 坂の多い片瀬山を中心に要望が多い。現在、高齢福祉課で検討している巡回バスも、高齢者や障がい者など移動に支障がある地区と公共施設を結ぶルートを組み込むなどの仕組みが重要である。</p> <p>③ 慢性的藤沢駅周辺の道路渋滞、夏の観光客による渋滞などを解消する対策が必要である。</p>
懸案事項	<p>(事業実施にあたっての懸案事項)</p> <p>① 設置は事業者の責務であり、行政は補助金などによる支援を実施することになると考えるが補助金メニューに変更があるようである。事業者は設置の意向で調整中との情報あり。</p> <p>② 運行して採算がとれるか。高齢福祉課で検討している巡回バスを代替することも考えられる。</p> <p>③ 横浜・藤沢線の延伸が考えられるが、134号線までの延伸の曖昧さや環境問題など課題があり、地域には根強い反対活動も展開されている。</p>
市域全体で検討すべき理由	<p>(全体課題としてどう整理するか)</p> <p>① バリアフリー化及び補助金執行は全庁課題として取り扱うべき。</p> <p>② コミュニティーバスの導入は事業者との調整や導入を希望する地域間の調整など地域での調整は困難であり全庁課題として取り扱うべき。</p> <p>③ 県、市内の交通ネットワークの構築に関わる課題であり、全庁課題として取り扱うべき</p>

**市域全体の重点課題として取り扱うべき「ふじさわ未来課題」報告書式
(鵜沼)**

未来課題番号	68
未来課題	日常生活に安らぎや豊かさを与えてくれる場所があること
地域課題として検討されている事業	(地域から課題として挙げられている事業) 鵜沼地区北部に鵜沼市民センター・公民館分館設置事業
原因や背景	(地域としてこれまで課題とされてきた原因や背景) 鵜沼市民センター・公民館は、鵜沼北部の住民からは、離れているところに設置していることによる不便さが指摘されている。地域分権が推進される中、今まで本庁で対応していた業務が市民センターでしか対応できなくなったものもあり、利用者の分散化、北部分館の必要が生じている。
懸案事項	(事業実施にあたっての懸案事項) <ul style="list-style-type: none"> ・一般財源での建て替え費用全額負担が困難なため、公民連携による有効利用案と財源確保の検討が必要 ・設置場所の特定は、地域単独では不可能
市域全体で検討すべき理由	(全体課題としてどう整理するか) <ul style="list-style-type: none"> ・市民センター・公民館の施設整備は、老朽化対策も含めて、年次計画に沿って実施されるべきであり、全庁課題として取り扱うべきである。

市域全体の重点課題として取り扱うべき「ふじさわ未来課題」報告書式
(鵜沼)

未来課題番号	68
未来課題	日常生活に安らぎや豊かさを与えてくれる場所があること
地域課題として検討されている事業	(地域から課題として挙げられている事業) 観光拠点・地産地消施設設置事業(鵜沼海岸に「海の駅」的施設を設置する)
原因や背景	(地域としてこれまで課題とされてきた原因や背景) 鵜沼海岸は、サーファーやビーチバレー等の観光客でにぎわっているが、なおかつそこに地産地消品の物販や、食事、休憩ができる施設ができれば、観光拠点となり、さらに観光地としての藤沢が相乗効果で活性化し盛り上がると思う。住民にとっても、地産地消の促進となる。
懸案事項	(事業実施にあたっての懸案事項) ・用地の確保、財源の確保、施設の運営
市域全体で検討すべき理由	(全体課題としてどう整理するか) ・観光振興、地産地消は、市全体の問題として考えるべきである。

**市域全体の重点課題として取り扱うべき「ふじさわ未来課題」報告書式
(鶴沼)**

未来課題番号	17
未来課題	保健、医療、福祉、健康などの生活環境が整い暮らしやすいこと
地域課題として検討されている事業	(地域から課題として挙げられている事業) 鶴沼地区内に特別養護老人ホームを誘致
原因や背景	(地域としてこれまで課題とされてきた原因や背景) 市内13地区で大規模な特別養護老人ホームの誘致建設の目途がたっていないのは、鶴沼地区のみとなった。現在、鶴沼地区は、高齢化率は、市内5番目であり、かつ、区域内人口も市内で最も多い中で、福祉の拠点施設となりえる特養を誘致することは、地域の介護福祉サービス全体の向上がもたらされと考えられる。
懸案事項	(事業実施にあたっての懸案事項) ・用地の確保、財源の確保、施設の運営
市域全体で検討すべき理由	(全体課題としてどう整理するか) ・ 特養の誘致建設は、市域全体の計画に基づいて行われるべきと考ええる。 ・ 地域住民は、特養誘致の必要性の周知等について協力する。

**市域全体の重点課題として取り扱うべき「ふじさわ未来課題」報告書式
(辻堂)**

未来課題番号	7 1
未来課題	辻堂市民センター改築事業
地域課題として検討されている事業	(地域から課題として挙げられている事業) 辻堂市民センター改築事業
原因や背景	(地域としてこれまで課題とされてきた原因や背景) 辻堂市民センターは、昭和53年の建設以来32年が経過し、老朽化が進み、利用する市民からも空調、トイレなどの設備や会議室、調理室等の使い勝手の悪さ、2階へはエレベーター設備もなく、駐車場の台数不足による不便さなどが指摘されている。(特に、公民館利用においては駐車場利用を認めていない。)さらに、事務室の狭隘化が著しく、市民センター機能の充実にも支障が生じている。地域市民の地域拠点施設として、改築の必要がある。
懸案事項	(事業実施にあたっての懸案事項) 現在の敷地の面積と隣接地主とのこれまでの係争関係や境界未確定であることなど、現在地での建て替えは、困難なことから別の土地を求める必要がある。従って、土地の取得費用と建設費用の両方が必要なことから、全額負担が困難なため、公民連携による有効利用案と財源確保の検討が必要 地域内公共施設(青少年会館)との共同利用の検討が必要。
市域全体で検討すべき理由	(全体課題としてどう整理するか) <ul style="list-style-type: none"> ・庁舎整備については、年次計画に沿って実施されるべきであり全庁課題として取り扱うべき ・地域課題で実施することには、財源や公民連携の点から困難性がある ・現地建て替えが困難な場合、移設先の決定は地域単独ではできない

**市域全体の重点課題として取り扱うべき「ふじさわ未来課題」報告書式
(明治)**

未来課題番号	65
未来課題	市内の交通・物流がスムーズに行われること
地域課題として検討されている事業	(地域から課題として挙げられている事業) 新南北線の開設
原因や背景	(地域としてこれまで課題とされてきた原因や背景) 大規模商店の出店による交通渋滞、閑静な住宅地への通過車両の増による居住環境の悪化
懸案事項	(事業実施にあたっての懸案事項) 湘南C-X事業完了へ向け、自家用車を利用した来街者の増加が見込まれる中、JRを南北に横断する道路が不足しており、羽鳥立体の大幅な交通渋滞、それに伴う周辺住宅地の環境の悪化が懸念される
市域全体で検討すべき理由	(全体課題としてどう整理するか) 松下跡地を利用したJRを南北に横断する道路が新たに都市計画道路候補路線に位置づけられる予定であるが、湘南C-Xを全市の重要事業と位置づけた背景からも、関連の交通問題の解決策を講じることは全市的課題として検討すべきであり、合わせて早期完成へ向け早急に地域の意見を参考に具体的計画立案に取り組むべき

**市域全体の重点課題として取り扱うべき「ふじさわ未来課題」報告書式
(明治)**

未来課題番号	9
未来課題	子どもを安心して育てられる環境があること
地域課題として検討されている事業	(地域から課題として挙げられている事業) 学区の柔軟な対応
原因や背景	(地域としてこれまで課題とされてきた原因や背景) 一部児童がJRを挟んで反対側にある八松小学校に通っており、危険である。
懸案事項	(事業実施にあたっての懸案事項) 地区内である湘南C-Xと共に近隣の松下跡地開発による人口増。
市域全体で検討すべき理由	(全体課題としてどう整理するか) 一部学区の見直しでも市全体に波及する可能性がある。

**市域全体の重点課題として取り扱うべき「ふじさわ未来課題」報告書式
(明治)**

未来課題番号	6 4
未来課題	商店街と大型店舗が共存共栄し、活気あるまちになること
地域課題として検討されている事業	(地域から課題として挙げられている事業) 商店街活性化事業 商店街と大型店舗の共存共栄について
原因や背景	(地域としてこれまで課題とされてきた原因や背景) 大型店舗の進出が相次ぐ中、商店街が疲弊している。
懸案事項	(事業実施にあたっての懸案事項) 車社会の中、消費者の購買動向が郊外型大型店舗に傾いている。
市域全体で検討すべき理由	(全体課題としてどう整理するか) 商店街と大型店舗の問題は社会全体の問題であり、市域全体で検討すべき。

市域全体の重点課題として取り扱うべき「ふじさわ未来課題」報告書式
(遠藤)

未来課題番号	
未来課題	
地域課題として検討されている事業	<p>(地域から課題として挙げられている事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 遠藤市民センター青少年ホール改築事業
原因や背景	<p>(地域としてこれまで課題とされてきた原因や背景)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成16年度に一部床張り改修はしているものの、今後、築50年(現在、築40年)を迎えるにあたり、老朽化が激しくなると予想されることから、中長期により改築計画を行うもの。 <p>(必要性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 雨漏りによる危険性等を除去する必要がある
懸案事項	<p>(事業実施にあたっての懸案事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 青少年ホールの敷地の一部を借用しており、改築時には、地主に返還し、改築する必要がある。
市域全体で検討すべき理由	<p>(全体課題としてどう整理するか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 庁舎整備については、年次計画に沿って実施されるべきであり、全庁課題として取り扱うべき

市域全体の重点課題として取り扱うべき「ふじさわ未来課題」報告書式
(遠藤)

未来課題番号	
未来課題	
地域課題として検討されている事業	<p>(地域から課題として挙げられている事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相鉄いずみ野線の延伸
原因や背景	<p>(地域としてこれまで課題とされてきた原因や背景)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東海道新幹線新駅，第二東名高速道路インターチェンジなどの広域的な交通拠点や都市拠点との連絡，連携を強化するため，「健康と文化の森」周辺を新たな鉄（軌）道系交通を導入し，駅を設置するもの。
懸案事項	<p>(事業実施にあたっての懸案事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成11年度に遠藤地区くらしまちづくり会議で提言
市域全体で検討すべき理由	<p>(全体課題としてどう整理するか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域課題で実施することには，財源の点から困難性がある。

市域全体の重点課題として取り扱うべき「ふじさわ未来課題」報告書式
(遠藤)

未来課題番号	
未来課題	
地域課題として検討されている事業	<p>(地域から課題として挙げられている事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農振農地の土地利用や主要路線の遠藤土地利用について ・ 市街化区域の線引き見直しについて
原因や背景	<p>(地域としてこれまで課題とされてきた原因や背景)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成11年度に遠藤地区くらしまちづくり会議で提言
懸案事項	<p>(事業実施にあたっての懸案事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地権者の同意 ・ 営農後継者の存在や従事者の意向の把握
市域全体で検討すべき理由	<p>(全体課題としてどう整理するか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域課題で実施することには、困難である。